

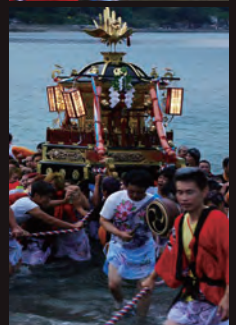
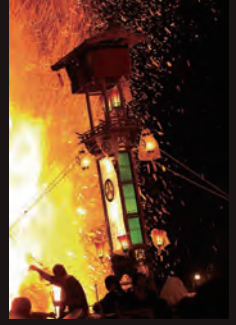


文化庁 日本遺産 (Japan Heritage) 認定
「灯り舞う半島 能登く熱狂のキリコ祭り」

巨大な灯籠が乱舞
魂をゆさぶる熱狂的な祭り

能登の 灯籠祭り

NOTO KIRIKOMATSURI
The Kiriko Float Festivals



Soul Exciting Brilliant

能登の キリコ祭り

未来に語り継ぐ、 魅力とところ

Noto
KIRIKO festival
Hand down to the future,
Charm and heart



寄稿 CONTRIBUTION

- 01. 神々に巡り会う旅 ……2
～熱狂のキリコ祭り～
石川県観光スペシャルガイド
藤平 朝雄さん
- 02. キリコ ……4
一構造と意匠からの考察
石川工業高等専門学校 建築学科 准教授
熊澤 栄二さん

聞き書き WRITE DOWN

- ……5
珠洲の海辺の町で聞く
能登独自のもてなし文化
「ヨバレ」

寄稿

01

神々に巡り会う旅 ～熱狂のキリコ祭り～

藤平 朝雄

「キリコ祭り」とは？

能登は「祭りの国」である。人々の生活はいつも神仏や祖霊、自然と共にあり、時代が移り生活様式が変わっても、祭りは今も住民の心の支えになっている。能登の祭りは多種多彩だが、中でも「キリコ祭り」と称される灯籠神事は、能登の祭りの白眉である。

「キリコ祭り」の歴史は江戸時代に遡る。時とともに、海、山を伝って七尾市と志賀町以北の能登一円に広く伝播した。その数は現在でもおよそ200あるといわれている。加えて、開催される期間も7月から10月と長期にまたがっており、この時期、能登を旅すれば必ずキリコ祭りに巡り会えるといっても過言ではない。

「キリコ(切籠)」とは、「一切子灯籠(きりことうろう)」の略称で、地域によっては「ホーター(奉燈)」、「オアカシ(お明かし)」とも呼ばれる。キリコは神輿の足元を照らす御神燈として担ぎ出され、大きいものは重さ2t、高さ15mにもなる。また、担がずに押し曳ぎするキリコでは、重さ4tに及ぶものもある。

キリコ祭りの魅力

祭りのメインタイムは、夜。キリコに灯りがともされると、氏子たちが一斉にキリコを担ぎ出し、町内を勇壮に練り回る。祭りの規模や趣向は、地域によって

「日本遺産」は、文化財を通じて地域の魅力を伝える「ストーリー」を国(文化庁)が認定するものです。平成27年4月、日本遺産の第1弾として、「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」が認定されました。





- ①石崎奉燈祭(七尾市)。港町の誇りと意地をかけたキリコの乱舞が見ものです。
- ②輪島大祭(輪島市)。4日間にわたり、市内四つの神社の祭りが繰り広げられます。
- ③宝立七タキリコまつり(珠洲市)。吹き流しや風鈴で華やかに飾られたキリコが夜の海に担ぎ込まれます。
- ④西海祭り(志賀町)。女性の担ぎ手が上に持ち上げるようにキリコを担ぎます。
- ⑤沖波大漁祭り(穴水町)。稜のため、午前中にキリコが海中へ。太鼓に合わせて乱舞。

さまざまだ。文字通り神輿やキリコが暴れ回る能登町の「あばれ祭」や、1000人も男たちが乱舞競演を繰り広げる七尾市の「石崎奉燈祭」、華麗な漆塗りのキリコが出御する輪島市の「輪島大祭」は、規模も壮大でエネルギーがすごい。大輪の花火が夜空を焦がす中、キリコを海中に担ぎ入れる珠洲市の「宝立七タキリコまつり」も華やかだ。このほか、女性を中心となってキリコを担ぐ志賀町の「西海祭り」、青空の下、海中でキリコが豪快に暴れ回る穴水町の「沖波大漁祭り」など、バラエティーに富んでおり、見るものを惹きつけてやまない。

また、キリコそのものの魅力も語らずにはいられない。キリコは能登固有の意匠をもつ、華麗な風流灯籠だ。総輪島塗で金箔や彫刻を施した豪華なキリコ、畳12枚分の大きさの屋根を持つ巨大なキリコ、袖型や雲型の形状をもつ「袖キリコ」、キリコに人形を飾り付けた「人形キリコ」など、大きさや華やかさを競いながら地区ごとに独自の進化を遂げてきた。

さらに、キリコは祭礼の賑わい創出には欠かせない多彩なエンターテインナーでもある。神輿と共に巡行し、笛・太鼓・鉦による音楽隊として賑やかに囃し立てる。

お囃子に合わせさまざまな動きをみせるキリコは、能登の祭りをいやが上にも盛り上げる千両役者と言えるだろう。

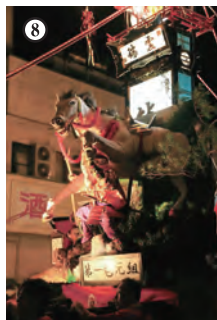
キリコ祭りには、「ヨバレ」と呼ばれる祭りごっこ(御馳走)の習俗がある。親類縁者や友人・知人など祭りに参加する者を座敷に上げ、五穀豊穡や大漁への感謝と共に、地元の食材や酒を振る舞う。地域コミュニティに大きな役割を担ってきたヨバレは、神人共食のハレの食祭でもあり、いわば「おもてなし」の原形をなすものだ。

キリコ祭りは、すべての地域住民が参加する、年に一度の大パフォーマンスであり、その奥義は「奉る」「待つ」ではないか。大いなる神に灯明を「奉る」こと、また、ハレの日に向けて精進潔斎して「待つ」ことに、先人から受け継がれた深い知恵をみる。待つことでエネルギーを蓄え、年に一度の祭りの日にそれを爆発させれば、否応にも祭りは熱気を帯び、地元で働く者、都会に出た者、すべての者が祭りを通じて一体となる。こうした祭りの熱気に共鳴したとき、観衆もキリコ祭りの貴重な構成要素となるのである。

【プロフィール】
石川県観光
スペシャルガイド
藤平 朝雄 さん
ふじひら あさお

●石川県輪島市在住。輪島市観光協会事務局長、キリコ会館館長を経て、現在は一般社団法人能登半島観光協会相談役、ほとと石川観光マイスター、石川県観光スペシャルガイドとして、能登の観光文化・歴史民俗に関する執筆、講演などに携わる。

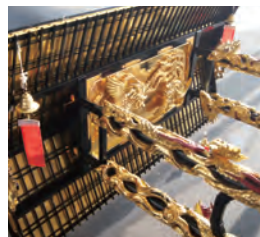
●著書に『奥能登万華鏡』『タブノキは残った』。写真家 渋谷利雄氏との共著に『能登燦々』『能登キリコ祭り』『能登劇場八十八景』など。長年にわたりNHKラジオ「マイあさだより」に折々に出演。神仏祖霊・自然・生活の場が渾然一体化しているのが「能登の魅力」だと発信を続ける。



- ⑥あばれ祭(能登町)。火と水で神輿を痛めつけるほど、暴れん坊の神様が喜びます。
- ⑦小木袖キリコ祭り(能登町)。小木港に明かりがともされた袖キリコが並ぶ姿は圧巻。
- ⑧松波人形キリコ祭り(能登町)。人形は歴史上の人物や伝承・昔話などがモチーフ。



奉灯上部に飾られた御幣。



屋根の内側には金箔や彫刻が施されているものもあります。



高さ16.5mにもなる最も大型のキリコ(寺家キリコ祭り)。

寄稿

02

キリコ—構造と意匠からの考察

熊澤 栄二

見る人の視線を考慮して制作

細部へのこだわりと工夫

キリコの高さは、奉灯(胴体部分)の枠の大きさが基本となる。この部分は、広くは「コジョウ」と呼ばれるが、珠洲市の三崎・大谷辺りでは「オオジョウ」、寺家から鶴飼にかけては「ナカフク」、正院・蛸島では「ナカドリ」、飯田では「ガクフク」など、地域によって呼び名が異なる。「コジョウ」と「オオジョウ」をあわせ「ジョウ」とも呼ばれるが、これが「畳」を意味すれば、「古式のキリコは一畳(6尺×3尺)1.8m×0.9m)が基本」との高山哲典氏(珠洲市・羽黒神社宮司)の説も聞かされる。

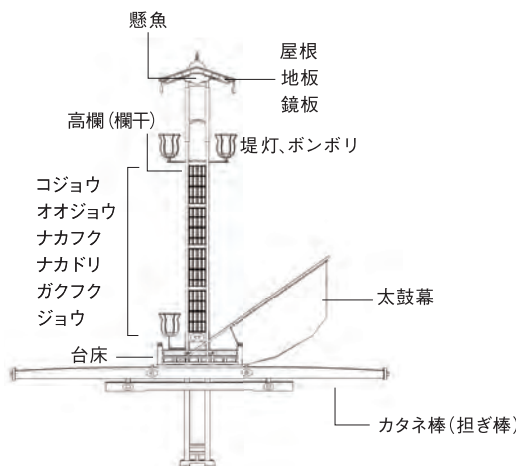
キリコ上部から意匠の特徴を見ると、屋根は切妻の形式で地板は化粧板とし、妻が合わさる部分には「懸魚(けぎよ)」と呼ばれる飾り板、棟には「鳥衾(とりぶすま)」と呼ばれる丸瓦を付するものがある。寺社建築の意匠ではあるが、どちらも火除けの意味がある。

大正期以降、キリコも巨大化の傾向を辿るが、地域によって「ノッポ型」「ズングリ型」に分かれる。キリコの制作には大工が当たることもあるが、集落内の建具職人などが制作することも多い。寺家の大キリコを制作した菊谷正好氏は、キリコが実際に立った時のバランスを重視したと語る。また、キリコの正面には大書や浮き字の紋、背面には観音菩薩、大黒天などの神仏のほか、義経伝説に擬えた勇壮な武者絵、「アネゴ」と呼ばれる美人画などが描かれるのが一般的だが、近年ではアニメ・キャラクターのキリコ絵も多くなった。キリコ絵師でもある成之坊良輔氏は、「人の目の高さから眺めた時の構図の歪みと色の輝きを想定して描くため、独自の技術と経験を要する」と説く。

屋根の下の奉灯最上部の飾りは、地域によって御幣、神、注連縄、酒樽と異なるが、能登町には旭日旗を飾る集落もある。また、キリコを担ぐ地域では、奉灯下部の高欄(欄干)に神を立て、神籬(ひもろぎ)、神様を迎えるための依代)とする場合もある。加えて、奉灯上部を提灯やボンボリで照らすのも、「キリコが派手に進化した頃、屋根裏の鏡板に施した金箔や龍の彫り物の装飾を光で浮き上がらせるのが起こり」との古老の話も紹介しておきたい。

奉灯下部の高欄は、和様の組高欄が擬宝珠(ぎぼし)高欄のいずれかの様式とし、金具で装飾を施すものも多い。コジョウを支える四本柱をつなぐ棧などの横架材は、貫(ぬき)の構造とし、激しく揺れるキリコの構造的な堅牢さを確保している。

キリコは強靭さを要求されるため、主要材にはアテ(能登ヒバ)を、力のかかる部分には桎が使われる。アテはヒノキに似ているが、繊維密度が高く重量が重む。塗料は、近年ではカシュー塗料も増えたが、珠洲市の正院・蛸島以北では、材の継ぎ目を消すため本漆とするものが多く、ケヤキの彫り物などが加わるとその重さは数トンに及ぶ。



奉灯中心部には大書や浮き字、武者絵が描かれます。



【プロフィール】

石川工業高等専門学校
建築学科 准教授/博士 (工学)
熊澤 栄二 さん
くまざわ えいじ

●石川県河北郡津幡町在住。学生の建築設計教育に携わるとともに、石川県建築賞や中部建築賞の審査員も務める。「奥能登珠洲のキリコ祭り」を事例とした観光戦略手法の構築についての研究」の成果として本稿を掲載。



能登の豊かな食材から作り出される郷土料理。ここでしか味わえない贅沢。



ヨバレ風景。各家の主人が招待客を丁寧にもてなします。

聞き書き

《珠洲の海辺の町で聞く》
能登独自のもてなし文化「ヨバレ」

能登の女たちの腕の見せ場

キリコ祭りでは「ヨバレ」という招待風習があり、各家庭で親戚や知人、仕事でお世話になっている人などを招いて、この日のために特別に用意した祭り料理「ごつつお（ご馳走）」でもてなします。

近年は仕出しも増えてきましたが、本来、自宅ですべての料理をつくりまします。準備は1年をかけて食材を集めることから始まります。「春、山菜採りに行くと、ヨバレ用にと一所懸命採って、カゴいっぱいになるがや」。楽しそうに話すのは、珠洲市馬線町在住の中平よう子さんと国永一子さん。ゼンマイやワラビなどは多めに採り保存しておくなど、ハレの日を支える意気込みが伝わってきます。

「ふだんから、おいしい料理に出会うと、『これ、何ところたん？』というて、材料やつくり方を聞いてみるがや」と研究心も旺盛です。

地域ごとに特色がある「ごつつお」

ごつつおは、能登の豊かな海山野の幸がふんだんに使われた郷土料理で、地域によって特色があります。一人ひとりに漆塗りの膳を整えてもてなすのが基本です。

お二人が暮らす珠洲の海辺の町では、一の膳に赤飯と汁物、昆布巻き、尾頭付きの魚、山菜や豆腐の煮ものに、刺し身。二の膳には茶碗蒸し、飾り切りした野菜の炊き合わせ、海草やくずきりの盛り合わせなどが載り、お膳からあふれんばかりです。珠洲市三崎町などのようにイイダコの煮物を出す

地域もあり、能登町柳田など内陸部では、かつてはウグイやアユなどの川魚のなれずしが必ず出されたといえます。

女性たちは、祭りの数日前から乾物を戻すなどの準備に取りかかり、当日は朝早くから調理を始めて夕方までに仕度を整えます。「家でつくるさかい、女たちは総出や。ほんなこって（このようにして）、ヨバレのごつつおが家々や集落で伝えられてきたんや」。

また、このときはかりは無礼講が許されます。酒もふるまわれ、若い衆たちは酒を飲んで勢いをつけてから、キリコを担ぎに出かけます。

ヨバレは、能登一円で受け継がれてきた独自のもてなしの文化。膳を一緒に囲むことで、絆を確認し、親睦を深める大切な場です。



中平よう子さん(右)と国永一子さん(左)にお話をうかがいました。



お膳は朱塗り。ハレの日の中でもヨバレは赤飯と決まっているそうです。味噌汁の具は「ゾメ(貝)が特に喜ばれるわ。採るがも世話するがも大変やけど」。



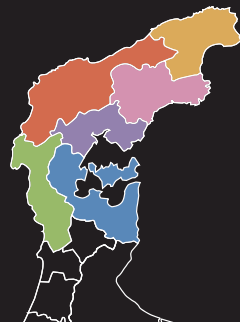
七尾市
NANAO CITY

石崎奉燈祭

いっさきほうとうまつり

01

能登の キリコ祭り 見どころ ガイド



Noto
KIRIKO Festival
Places to Visit
Guide

七尾市 NANAO CITY

- 01. 石崎奉燈祭 …6
- 02. 能登島向田の火祭 …8
- 03. 塩津かがり火恋祭り …9
- 04. 七尾祇園祭 …10
- 05. 新宮納涼祭 …11

輪島市 WAJIMA CITY

- 06. 輪島大祭 …12
- 07. 名舟大祭 …14
- 08. 曾々木大祭 …15
- 09. 水無月祭り …16
- 10. 劔地八幡神社大祭 …17

珠洲市 SUZU CITY

- 11. 宝立七夕キリコまつり …18
- 12. 飯田町燈籠山祭り …19
- 13. 寺家キリコ祭り …20
- 14. 蛸島キリコ祭り …22
- 15. 正院キリコ祭り …23

志賀町 SHIKA TOWN

- 16. 西海祭り …24
- 17. 富木八朔祭礼 …25

穴水町 ANAMIZU TOWN

- 18. 沖波大漁祭り …26
- 19. 大町・川島祭り …27
- 20. 前波曳山祭り …28
- 21. 明千寺キリコ祭り …29
- 22. 中居キリコ祭り …29

能登町 NOTO TOWN

- 23. あばれ祭 …30
- 24. 恋路火祭り …32
- 25. どいやさ祭 …33
- 26. 小木袖キリコ祭り …34
- 27. にわか祭 …35
- 28. 柳田大祭 …36
- 29. 松波人形キリコ祭り …37

災難を乗り越え、今に受け継ぐ

七尾市石崎町は七尾湾に面した活気あふれる漁師町。昔気質が今も残るこの町で、海の男達が一年に一度熱い血潮をたぎらせる祭りが石崎奉燈祭です。

かつては石崎八幡神社の納涼祭り、京都祇園祭りの流れを汲むといわれる山車が繰り出されてきました。しかし、度重なる大火で山車を焼失し、中断を余儀なくされました。町が活気を取り戻した明治の中頃、奥能登の宇出津地区よりキリコを譲り受けたことを契機に、大漁や五穀豊穡の祈願とともに火を鎮める神事としたことから、「奉燈」を担ぐ灯籠神事として復活を遂げ、今の形がつけられたといわれています。

意気高らかに百人の男衆が
漁師町の誇りをかけて担ぐ



迫力ある武者絵が勢ぞろい。



一心不乱に武者絵を描く絵師。



① そろいの法被姿の担ぎ手。地区ごとにチームカラーが決まっています。
 ②③ お囃子で祭りを盛り上げるのは花編み笠と浴衣姿の子ども達。

夕方になると各地区の奉燈が勢ぞろいし、クライマックスを迎えます。奉燈の灯りと音が創り上げる幻想的な世界の中、激しい乱舞競演が繰り広げられます。

能登人からの一言メッセージ

100人もの海の男たちが、大きなキリコを担ぎ上げて練りまわる威勢よさは必見です。細い路地から見上げると、キリコがますます大きく見えて迫力満点。キリコを通すため、電線が道路を横切らないようにしている、地域の心意気にも注目です。



石川県観光
 スペシャルガイド
藤平 朝雄さん
 ふじひら あさお

能登半島広域観光協会相談役。
 元キリコ会館館長。

誇りと意地がかかった乱舞競演
 夕刻になると神輿のお涼み場所である「堂前広場」に6基の奉燈が勢ぞろい。神事を終え、あたりが夕闇に包まれるといよいよクライマックスです。奉燈の胴体部に記された「大書」と豪快な武者絵が闇の中に幻想的に浮かび上がります。太鼓がドーンと打たれると、掛け声とともに奉燈が担ぎ上げられ、続いて囃子に合わせて、乱舞競演が始まります。その勇ましさは、能登の荒海で鍛えられた男の迫力そのもの。漁師町の意地をかけ力強く乱舞する奉燈に、夜空の花火が彩りを添えると、さらに大きな歓声が上がります。担ぎ手も観客も興奮の渦に呑み込まれていきます。

威勢のよい掛け声が響き渡る
 奉燈(キリコ)は高さ15m、幅3m、重さは2tもあり、担ぐキリコとしては最大級。ねじり鉢巻ぎさらしに地下足袋姿の約100人の男衆に担ぎ上げられ、「サツカサイ、サカサツサイ、イヤサカサー」と威勢のよい掛け声とともに町内を練り歩きます。
 奉燈の上からは、花編み笠に色鮮やかな浴衣姿の「小若衆」によるお囃子がにぎやかに鳴り響き、その笛や太鼓、鉦の音に合わせて男衆が大きな奉燈を狭い路地の軒をぎりぎりにかすめるように勢いよく担ぎ回します。統制のとれた小気味よい動きが見どころです。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 100人の男達の統制のとれた動き
- 闇に浮かぶ幻想的な大書と武者絵
- 漁師町ならではの圧倒的な勇ましさ

開催日 / 8月第1土曜日
 場所 / 七尾市石崎町
 問い合わせ / 七尾市 観光交流課
 ☎0767-53-8424

キリコラム

大漁祈願・五穀豊穡・子孫繁栄の祈り「大書」と「武者絵」

大書「願いと祈りを込めた墨文字」

奉燈には、三文字や四文字の佳句、佳字が書かれています。東一区の「魚満浦」は大漁への願い、東四区の「智仁勇」は善悪の判断、慈しみや思いやり、勇気・気力を意味し、人の徳を表わすなど、大書に込める想いもさまざまです。

武者絵「伝承や地域の個性を表現」

奉燈の裏面には、武者や伝説上の人物が描かれています。東二区が浦島太郎東四区は武者西一区が観音というように、各地区で使う絵柄が決まっています。違う絵柄にすると奉燈が重く感じたり、思うように動かないといわれています。



漆の柱に映える、思いがこめられた大書。

能登島向田の火祭

のどじまこうだのひまつり

02

男神と女神の逢瀬の夜に 巨大松明の炎が燃え盛る

男神と女神が年に一度逢瀬を楽しむ

能登半島の七尾湾に浮かぶ能登島。「日本三大火祭り」のひとつにも数えられる能登島向田の火祭りは伊夜比咩神社の祭り。越後の国をつくった伊夜比古神(男神)がこの地を訪れ、恋しい伊夜比咩神(女神)と年に二度の逢瀬を楽しむお祭りです。向田町の人々にとって、夏に行われる火祭りはいつの時代も住民総出の一大行事です。

能登一の巨大な柱松明

神社での神事後、神輿は火祭りの舞台となる「崎山の干場」まで渡御。鉦とともに大太鼓を打ち鳴らす豊年太鼓や、笛や小太鼓による囃子が盛り上げる中、大小7基の奉燈(キリコ)が道中を照らしながら進みます。

崎山の干場に到着すると、高さ約30mもの巨大な円錐形の柱松明が出迎えます。囃子のリズムが「ヤッサ、ヤッサ」と勇ましい調子に変わります。担ぎ手は奉燈を据え置くと、神輿の神燈の火を移した手松明を持ち、振り回しながら柱松明の周囲を駆け巡ります。熱気が最高潮に達した頃、合図とともに持っている数百の手松明を一齐に柱松明に投げ入れます。柱松明に火が付き、一気に巨大な火柱となって燃え上がります。その火焰は凄まじく、漆黒の夜空を焦がさんばかりの勢いです。

燃え盛る柱松明は、山側に倒れると豊作、海側に倒れると豊漁になるといわれています。松明の先端につけられた御幣は延命息災をもたらすとされ、松明が倒れると人々は御幣を取りに殺到し、祭りはクライマックスを迎えます。



①神輿に7基の奉燈が付き従い、道中を照らします。
②迫力ある手松明。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 能登一の巨大松明が燃えるさまは豪快
- 観客も手松明を持って参加できる
- 多様な囃子が祭りをドラマチックに演出

開催日 / 7月最終土曜日

場所 / 七尾市能登島向田町

問い合わせ / 七尾市 観光交流課

☎0767-53-8424

キリコラム

さまざまな形や大きさをもつ「松明」

キリコ祭りでは、燃え盛る大松明の周りをキリコが乱舞する祭りも多く、勇壮な光景は見る人の心をとらえて離しません。松明の炎は災厄を焼き払う火であり、清めの意味があるといわれています。柱の先に傘を広げてのせたような「傘松明」や、上部に藁を巻きつけたホウキのような形のもの、かがり火のように籠の中に木片や藁を組んだものなど、地域によってさまざま松明が用いられています。



傘松明(輪島大祭) 柱松明(能登島向田の火祭) 御幣を差した松明(柳田大祭)

塩津かがり火恋祭り

しおつかがりびこいまつり

03

蓮の流し火は銀河の如く、 幻想的で美しい祭り

海の上のロマンティックストーリー

七尾西湾に面した中島町塩津地区で年に一度、山側の男神「日面神」と海側の女神「唐島の神」が、海の上で逢瀬を遂げるロマンティックな祭りです。夕刻、それぞれの神社で神事を終えた後、神輿と奉燈(キリコ)を乗せた船が、笠師保塩津(川河口)と唐島の棧橋からそれぞれ海へと漕ぎ出します。その際、蓮の葉の流し火が海へと流され、光の道が浮かび上がります。

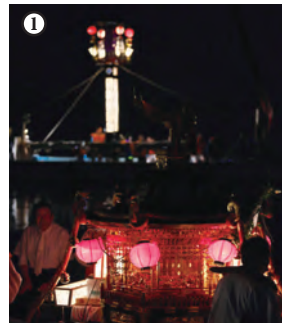
船はこの光の道にいざなわれて進み、やがて両神は海に浮かぶかがり火で出会い、一緒にかがり火を3周する間、束の間の再会を楽しみます。逢瀬を祝福するかのような花火に夜空と海面が一斉にきらめき、人々は幻想的な世界へと誘われます。その後、両神はそろって塩津の海岸に向かい、広場での神事を終えると、来年また逢うことを誓って、それぞれの社へと帰っていきます。

さまざまな灯りがストーリーを演出

能登の里山里海に息づく人々の暮らし。その暮らしを見守る神々の年に一度の出会いの場。人々は、その逢瀬のひと時に五穀豊穡と平穏無事を願います。

この塩津かがり火恋祭りは、男女の神様が、それぞれ奉燈とともに船に乗って海上で集い、連れ立って巡行するという独特のストーリーで、数あるキリコ祭りの中でもひととき異彩を放っています。奉燈の灯り、流し火やかがり火の燃える灯り、花火のきらめく灯りなど、祭りを取り巻くさまざまな灯りには、待ち焦がれる恋人への熱い思いが秘められているのかもしれない。

小船に乗せられた灯籠と流し火の灯りが、ゆらゆらと水面に映し出され幻想的です。



①



②

①② 神輿とキリコが船に乗せられて海へ漕ぎ出します。

ココがみどころ【感重ポイント】

- 男女の神様の海上ランデブー
- 神輿と奉燈が船に乗せられ海上へ
- かがり火と流し火がつくる幻想的な光景

開催日／7月第4土曜日
場所／七尾市中島町塩津地区
問い合わせ／七尾市 観光交流課
☎0767-53-8424

七尾市
寄り道スポット

和倉温泉



1200年の歴史を誇る名湯。足湯や温泉卵づくりも楽しめる。

石川県能登島ガラス美術館



世界の現代ガラス造形や中国清朝のガラス工芸を収蔵・展示。

のとじま水族館



近海魚を中心にジンベエザメなど約500種の海の生き物を紹介。

大きいものは高さ15m、小さいものは6m。
大きさに合わせ30～100人の若衆が力強く担ぎます。

七尾祇園祭

ななおぎおんまつり

04

かがり火の周りを奉灯が競い合い、
激しく乱舞する



祇園会の伝統を残す納涼祭

七尾市中心部にある大地主(おおとこぬし)神社(山王神社)の夏祭り「七尾祇園祭」は、疫病厄除けを願う祇園信仰が盛んだった平安時代、この地に京都祇園社の祭神を勧請し祇園会を行ったことが始まりだと伝えられています。祭神・牛頭天王(こずてんのう)が納涼のため浜辺の仮宮に遷座することから「おすすみ祭」とも呼ばれています。

祭りでは、初子誕生や家屋新築などの祝いごとがあった家が、町内の奉燈(キリコ)に祝酒を出し、担ぎ手の若衆が「シユウガ・カーガ・チヨウチン・ヤットコセー(祝賀加賀長久弥栄)」という祝唄を返す習わしが今も続いています。

疾走する奉灯を見事に統率

祭りのクライマックスは夜。夕方、町内を巡行した奉燈は、花火を合図に、浜辺の仮宮に集まります。

御祓いの後、くじで決まった1番の町から神輿を先導して大地主神社へ。境内に勢ぞろいした11基の奉燈には笛・鉦・太鼓の囃子衆が乗り込み、50人余りの若衆が担ぎ出します。赤々と燃え上がるかがり火の周囲を競い合うように奉燈が疾駆。時には息をぐっと止めて見入るほどに凄まじい勢いで乱舞します。奉燈の運行は太鼓に合わせて赤禰(たすき)の指導者が疾走、徐行、停止の合図を出し、その見事な統率ぶりも見どころのひとつです。

鳴り響くお囃子とゆらゆら動く灯りの競演のうちに夜は更け、くじで最後になった町が七尾に古くから伝わる祝儀唄「七尾まだら」を披露して祭りを締めくくります。

ココがみどころ【感動ポイント】

- かがり火の周りを11基の奉灯が競うように乱舞
- 赤禰の指導者による奉燈の運行の統率ぶり
- 祭りの締めには披露される祝儀唄「七尾まだら」

開催日／7月第2土曜日
場所／七尾市山王町(及び市街地東部)
問い合わせ／七尾市 観光交流課
☎0767-53-8424



①② かがり火の炎と、豪快なキリコの乱舞。



キリコラム

能登なのはどうして祇園?

平安時代、疫病を鎮める力をもつとされる牛頭天王を信仰する「祇園信仰」が流行し、山車などを運行する祭りが生まれ、それが「祇園会」として全国に広がりました。「祇園会」は能登にも伝わり、七尾市の「七尾祇園祭」や能登町の「あばれ祭」など、その一部は現在のキリコ祭に形を変えて受け継がれています。



七尾祇園祭



あばれ祭

新宮納涼祭

しんごうのうりようさい

05

ろうそくの灯りがゆれるキリコ、 幽玄な夏の夜祭り

風情が漂う「お明かし」。
地区ごとに願いを込めた墨字の大書が、
ゆれる炎に照らされて浮かび上がります。



闇にゆれるろうそくの明かり

里山の風景が広がる七尾市中島町鉦打地区。この地に鎮座する藤津比古神社は、地域の人に「新宮(しんご)」の名で親しまれています。暑い夏、神様に夕涼みを楽しんでもらおうと始まった新宮納涼祭は、「新宮(しんご)のう涼み(うすずみ)」とも呼ばれています。

鉦打地区ではキリコを「お明(あ)かし」と呼び、祭りには8つの集落から毎年10基前後が出されます。能登のキリコの明かりも電灯が主流になっている中で、「お明かし」は今もろうそく。夜道を揺れながら進む明かりは、遠目で見ると電灯との違いが際立ちます。暗闇に溶けこんでしまいそうな儚(はかな)げな美しさに夏の暑さも薄らいでいくような気がします。

祭り唄にあわせて練り回る

新宮納涼祭はお囃子にも特徴があります。笛は使わず、太鼓と鉦を独特のリズムで打ち鳴らし、祭り唄「やんさこ」が歌われます。藤津比古神社に勢ぞろいしたキリコは、祭り唄にあわせて境内をゆったりと練り歩いた後、神輿を先頭に「水落とし」と呼ばれる熊木川右岸にある広場に向かいます。「水落とし」では、神輿を中心に大小のお明かしが横一列に並び、その眺めは壮大で見応え十分。

やがて、太鼓と鉦の音が高鳴る中、順番に円を描いて何度も力強く乱舞すると、対岸で見守る人達から歓声が上がります。ろうそくのゆらめく炎が幻想的な雰囲気醸し出す夏祭りです。

能登人からの一言メッセージ

能登の里山、熊木川中流域に静かに佇む鉦打地区。祭りの日、深夜まで家々の灯りがともる中、キリコの行列が太鼓と鉦の囃子に合わせてお旅所の「水落とし」へ巡行する。ろうそくの灯りがゆらめき、祭り唄「やんさこ」が情緒を醸し出すその風情は、この地独特で郷愁を誘う。一度見ると忘れられない祭りだ。



石川県観光
スペシャルガイド
藤平 朝雄 さん
ふじひら あさお

能登半島広域観光協会相談役。
元キリコ会館館長。



①



②

①キリコの上部の鏡に、キリコや飾りの灯りがやわらかに反射してゆげです。

②しっとりした情緒が味わえるろうそくの灯り。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 昔ながらのろうそくの明かりに風情漂うキリコ
- 「水落とし」でキリコが横一列に並ぶ壮観な眺め
- 優美な祭り唄「やんさこ」でお練り

開催日／8月14日

場所／七尾市中島町藤瀬

問い合わせ／七尾市 観光交流課

☎0767-53-8424

輪島大祭
わじまたいさい

06

晩夏を彩る四つの祭り
輪島の町中が熱く燃える総漆塗りのキリコと過ごす、
輪島が最も熱い日

「輪島大祭」は輪島市中心部の4つの地区(海士町・奥津比咩神社、河井町・重蔵神社、鳳至町・住吉神社、輪島崎町・輪島前神社)で行う夏祭りの総称です。いずれも神様に涼をおとりいただく「お涼み祭り」で、総漆塗りの豪華なキリコが巡行するのは、漆の里・輪島ならではの。4つの祭りは連続して開催され、この間、市内はむせかえるような熱気に包まれます。

女装した若者が神輿を担ぐ

トップバッターは奥津比咩神社の祭礼。本社は輪島沖の舳倉島にありますが、現在は海士町にある里宮で行われます。神輿を担ぐのは、顔に紅を塗り、カラフルな腰巻をつけ女装した若者達。初日の夕方、袖ヶ浜で神輿が海に入り沖に向かうと、浜側から子ども達が神輿に結んだ手綱を引っ張り、神輿が行きつ戻りつします。このやりとりが長引くほど、豊漁になるといわれています。

松明につけた御幣を奪い合う

重蔵神社の祭礼では、お供の「奴提灯」も見逃せません。蒔絵や青貝の装飾が施された提灯は、キリコの明かりに照らされいっそう美しく輝きます。輪島港マリントウンでの松明神事では、大松明に注目です。最上部が笠のような形をしており、「くじぎり縄」と呼ぶ縄を取りつけ、その縄を囲むように3本の御幣をさします。燃え盛る松明の周りを神輿が3周し、松明が倒されると、御幣をめぐり激しい奪い合いが繰り広げられます。

キリコラム

キリコ担ぎ体験に挑戦!

輪島市中心部の海沿いに位置する「輪島キリコ会館」。館内には祭り囃子が流れ、大小さまざまなキリコ約30基がところせましと展示されています。また、法被を着てキリコを担ぐ体験もあり、祭り本番さながらの雰囲気を楽しむことができます。キリコを担げばその重さにビックリするかも!?

○輪島キリコ会館：輪島市マリントウン6-1

料金／大人620円・高校生470円・小中学生360円

キリコ担ぎ体験(要予約)(最低人数 大人10人以上・小中学生15人以上) 1人500円

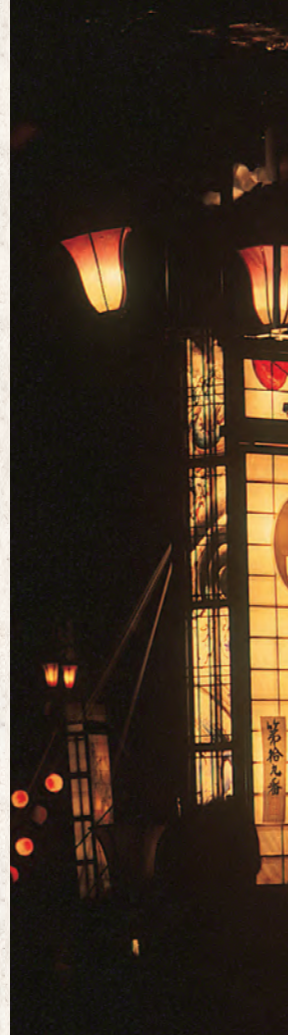
営業時間／8:30～17:30(無休)



輪島キリコ会館内に材立するキリコ



輪島キリコ会館外観



- ① 女装した若衆が神輿を担ぎ、海中を渡御。(奥津比咩神社大祭)
- ② 御神事太鼓に先導されて、町を練り歩くキリコ。(住吉神社大祭)
- ③ 大漁と海上安全を願う、鯛の形をした神輿。(輪島前神社大祭)
- ④ 燃え上がる大松明。「くじり縄」が取り付けられています。(重蔵神社大祭)

「担ぐ」ための知恵

熊澤 栄二

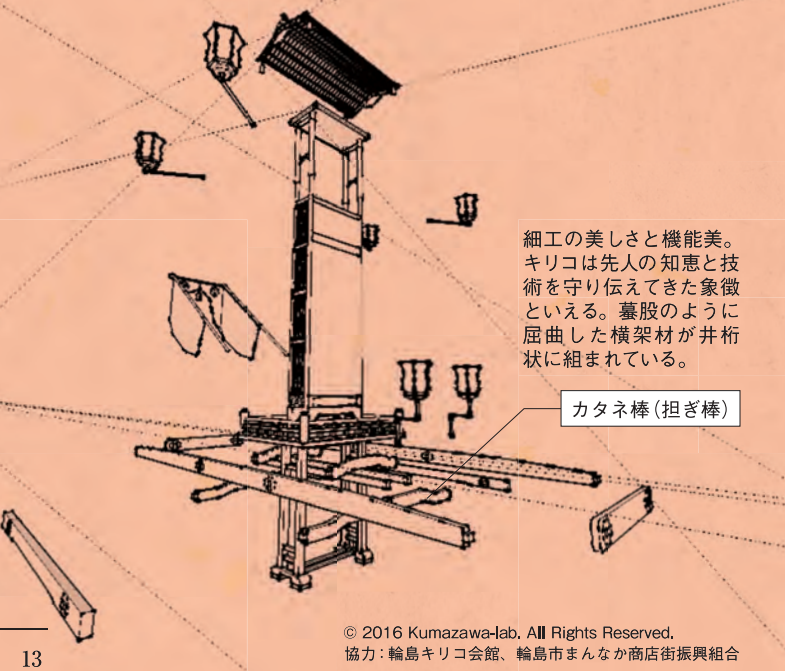


輪島市まんなか商店街振興組合のキリコは、担ぐことへのこだわりが形として表れ、興味が尽きない。

人が実際に担ぐ「カタネ棒」(担ぎ棒)にはアテが使われる。カタネ棒の仕口部分の彫り込みを浅く抑え、キリコ本体を囲むようにカタネ棒の下に横架材を井桁状に組んで、真横からも担げる形をとる。横架材にも直接キリコの荷重を担わせるため、墓股(かえるまた)のように屈曲した形状となる。こうした構造により、カタネ棒にかかる負担はかなり軽減されていると思われる。



輪島市まんなか商店街振興組合にご協力いただき、キリコを解体し実測調査を行った。



細工の美しさと機能美。キリコは先人の知恵と技術を守り伝えてきた象徴といえる。墓股のように屈曲した横架材が井桁状に組み立てられている。

カタネ棒(担ぎ棒)

素朴な「笹キリコ」の行列
住吉神社の祭礼では輪島川の三角州で松明神事を行います。三角州へ向かう途中、橋の上をキリコが一气に走り出す姿は豪快そのもの。神のしもべである天狗や般若の面をつけた打ち手が激しく打ち鳴らす「御神事太鼓」が神輿を先導し、4〜5mの竹の先に燈籠をつけた「笹キリコ」がお供をします。

鯛の形の神輿がユニーク
フィナーレを飾るのは輪島前神社の祭礼。大漁と海上安全を願う鯛の形をした神輿が、キリコをともなつて、町内の細い通りを勢いよく駆け抜けます。港には大漁旗を掲げた漁船が並び、祭りを盛り上げます。クライマックスは松明神事。輪島崎町では松明の倒れる方向で吉凶を占い、海側に倒れば大漁、山側に倒れば豊作といわれています。

ココがみどころ【感動ポイント】

- それぞれに特徴ある祭りが連日わたって行われる
- 夕暮れの色で豊漁を願う入水行事(奥津比咩神社大祭)
- 誉れをかけて御幣を奪い合う松明神事(重蔵神社大祭)

輪島大祭日程

- 8月22日 奥津比咩神社大祭(海士町)
- 8月23日 重蔵神社大祭(河井町)
- 8月24日 住吉神社大祭(鳳至町)
- 8月25日 輪島前神社大祭(輪島崎町)

開催日/8月22日~25日

場所/輪島市中心部(海士町・河井町・鳳至町・輪島崎町)

問い合わせ/輪島市観光課

☎0768-23-1146

名舟大祭

なふねたいさい



迫力ある「御陣乗太鼓」の奉納。奇怪な面をつけ太鼓を打ち鳴らします。地の底から響く音に心揺さぶられて。

07

海から神を迎え始まる祭り 御陣乗太鼓も見逃せない

急な坂道を登るキリコに喝采

「御陣乗（ごじんじよ）太鼓」の里、輪島市名舟町。その昔、この地に攻め入る上杉謙信の軍を、村人が奇怪な面をかぶり太鼓を打ち鳴らして退けたことが「御陣乗太鼓」の由来です。村人はこれを舳倉（へぐら）島の奥津比咩神の御神徳によるものとし、奥津比咩神社の大祭「名舟大祭」で太鼓を奉納するようになりました。

祭りの最初の見せ場は初日の夜9時頃。奥津比咩神社の遥拝所である白山神社に各地区のキリコが参集します。神社は急峻な崖に張りつくように鎮座しているため、参道の急な坂道を進む担ぎ手は危険と隣り合わせ。必死に担ぐ姿に思わず声援を送りたくくなります。

キリコが勢ぞろいすると神輿とともに名舟海岸へ。海に立つ鳥居まで神輿が船に乗り、舳倉島にある奥津比咩神社の祭神を迎えます。神輿が海岸に戻ると、御陣乗太鼓を奉納。暗闇に浮かび上がる恐ろしい形相の面と鬼気迫る太鼓の音は迫力満点です。午後11時を回る頃から、神輿とキリコが町内を巡行し、その後も、お飯屋でキリコが勇壮に乱舞します。

御陣乗太鼓が露払い

2日目の本祭りでは、御陣乗太鼓が山車に乗って神輿を先導。道中を音で清める露払いの役です。神輿が名舟海岸に到着すると、船に神輿を乗せ、海に立つ鳥居まで祭神をお送りします。海岸の広場では、山車から降りた御陣乗太鼓の奉納打ちが始まり、祭りは終盤。夏空のもと、繰り広げられる太鼓もまた一興。腹の底に響く荒々しい音色に祭りの余韻が漂います。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 船に乗って神様を送迎する厳かな神事
- 急坂の参道をキリコを担いで登る勇壮な姿
- 御陣乗太鼓の鬼面の迫力と力強い音色

開催日／7月31日・8月1日

場所／輪島市名舟町

問い合わせ／輪島市 観光課

☎0768-23-1146



① 神輿の海上渡御。神様を海の上でお出迎えます。

② キリコが並んで、神輿のお供。



キリコラム

名舟に伝わる厳めしい御陣乗太鼓

戦国時代末期、能登侵略にやってきた上杉謙信の軍勢に立ち向かうため、村の古老の指図で、樹の皮の面に、海藻を髪にし、太鼓を打ち鳴らしながら夜襲をかけました。思いもよらぬ陣太鼓と奇怪さわまる怪物に驚愕し、戦わずして上杉勢が退散したといわれこの夜襲の陣太鼓が御陣乗太鼓として受け継がれています。

○御陣乗太鼓実演(無料): 4月~11月の毎土・日曜、祝日(夏休み期間は毎日)の午後8時30分~8時50分、輪島キリコ会館 もてなし広場にて。



木の皮の面、海藻の髪をつけ陣太鼓を打ち鳴らします。

曾々木大祭

そそぎたいさい

08

「窓岩」を背景に花火と松明、 キリコと勇壮な太鼓が競演



地域の発展を願う祭り

輪島市の曾々木海岸は、「窓岩」をはじめ奇岩が連なる景勝地。「あいの風」に乗って神様が漂着したという「寄り神伝承」が残るこの地では、毎年8月に、春日神社の例祭「曾々木大祭」が執り行われます。

初日の宵祭り。午後9時頃、総輪島塗のものや白木造りのものなど大小5基のキリコが神社に勢揃いします。神事が終わると、キリコ最上部のぼんぼりに神殿のろうそくから火をいいただき、いよいよ出発。神輿をキリコが囲みながら町内を練り歩きます。キリコにももされた和ろうそくの明かりがゆらめき、幻想的な光景が広がります。

「窓岩ボケットパーク」に着くと、エネルギーは一気に爆発。柱松明が燃え盛り、花火が打ち上げられる中、「御陣乗(ごじんじよ)太鼓」や地元で伝わる「八世太鼓」が力強く打ち鳴らされ、キリコは勇壮に乱舞。光と炎、音とキリコの競演に一带は興奮のつぼと化します。

神輿が立ち寄り慶事をことほぐ

2日目の本祭りでは、神輿が集落を渡御します。その年に新築や開業など特別な慶事があつた家には、神輿が立ち寄り祝詞(のりと)を奏上する風習があり、その家からはお神酒(みさ)が献じられ、担ぎ手には冷たい飲み物などがふるまわれます。昔ながらに人々の生活と祈りが密接に関わっているのも、能登ならではの魅力です。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 松明行事とキリコ乱舞、打ち上げ花火を同時に観賞
- ろうそくの火がともる幻想的なキリコ巡行
- 御陣乗太鼓と八世太鼓の勇壮な演舞が競演

開催日／8月17日・18日
場所／輪島市町野町曾々木海岸
問い合わせ／輪島市 観光課
☎0768-23-1146



①お祓いのあとでキリコの供奉の順番が決まります。
②和ろうそくが灯され、情緒ある風景を作り出します。



キリコラム

寄り神伝承と「あいの風」

春から夏にかけて日本海に吹く北東の風を能登半島では「あいの風(あへの風、あゆの風)」と呼びます。曾々木海岸に神様を運んだのもこの風。古く万葉集の時代から豊作や豊漁など「幸せを運ぶ風」と言われますが、東風は低気圧をともしない暴風となることも多く、時化(しげ)東風という言葉もあります。



曾々木海岸のシンボル「窓岩」。大きな一枚岩です。

旧中学校に勢ぞろいしたキリコ。整然と、大松明の灯火を今か今かと待ちます。

水無月祭り

みなづきまつり



09

夏越しの祓神事の伝統を 今に伝えるキリコ祭り

心に染み入る祭り囃子

1年のちようど真ん中、旧暦6月晦日に半年分のケガレを祓う行事「夏越しの神事」。この伝統を色濃く残している祭りが、輪島市南志見地区で行われる水無月祭りです。

祭礼初日の午後11時、奉納の花火が打ち上がる中、南志見住吉神社から5基の神輿と各町のキリコが海岸を目指して出発し、町中を練り歩きます。暗闇の中、キリコの明かりを頼りにゆったりと進む列に、この地区独特の祭囃子がよりいっそう趣を添えます。

神輿が渚で神事を終えると、近くの新南志見中学校グラウンドを御旅所に、神輿とキリコが大乱舞。歩走・休帰の4種類の囃子に呼応して、キリコは美しい光の線を描き出します。深夜、浜辺の大松明に火がつけられ、神輿はその周りを乱舞。炎が燃え尽きる頃、松明に取りつけられた3本の御幣の奪い合いが始まり、祭りはクライマックスを迎えます。

海水で半分分のケガレを祓う

2日目、南志見川河口に設けられたお祓い所では「潮垢離(しやうぐり)の神事」が行われます。神輿に付き添う神を飾りつけた鉾(ほこ)を海水につけ、ケガレを祓って清めます。夏の日ざしの中、浜辺に5基の神輿が並んで行う式は、見る人の心も清められるような清々しさです。その後、神事を済ませた神輿は、住吉神社へと戻って、還幸祭を執り行い、祭りは静かに幕を閉じます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 「夏越しの神事」を受け継ぐ代表的なキリコ祭り
- 大松明につけられた御幣の奪い合い
- 巡行に合わせて奏でられる4種類の祭囃子

開催日／7月30日・31日
場所／輪島市南志見地区
問い合わせ／輪島市 観光課
☎0768-23-1146



①南志見住吉神社へ進む神輿。静かに還幸します。
②「潮垢離の神事」で半年のケガレを祓います。



輪島市 寄り道スポット

輪島工房長屋



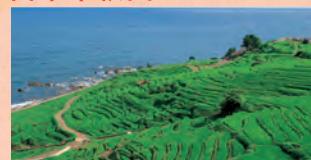
堅牢で美しい「輪島塗」の製造工程を見学。沈金・蒔絵の体験も。

輪島朝市



毎朝約200の露店が並び、新鮮な野菜や魚介・干物などを販売。

白米千枚田



急斜面に棚田がつらなり、「能登の里山里海」を代表する景勝地。

劔地八幡神社大祭

つるぎちはちまんじんじゃたいさい



10

神輿とキリコ、獅子舞が 幸をふりまき一緒に巡行

地区をあげての素朴な夏祭り

劔地八幡神社大祭は、泣き砂で知られる「琴が浜」がある輪島市門前町劔地地区の夏祭り。元々はこの地に伝わる「おさよ」と「重蔵」の悲恋の物語にちなみ、「おさよまつり」とも呼ばれています。また、神輿に乗った神様が各家庭を回って幸福をもたらすことから「神幸祭」とも呼ばれています。

祭りの日、神輿は朝からキリコや獅子舞とともに、町内を回ります。担ぎ手は、神輿やキリコを頭上に高く担ぎ上げると、家紋入りの幕と提灯を下げた民家の軒をすれすれに通り返し、「ソーラ、サツセ」と掛け声をかけ、右に左にゆれながら練り歩きます。

町内をくまなく巡行し、午後10時頃に神社の前へ。鉦と太鼓の祭囃子に合わせて、神輿とキリコがいっせいに力強く乱舞する中、神輿の上に乗った若者が飛び乗り、屋根に飾られた神様の依代である鳳凰を抜き取ると、祭りはいよいよクライマックスを迎えます。鳳凰を抜き取るのは、厄年を迎える若者。ハレの仕事をやり返すと「できたできた、うまいことできた」と一斉に称えられます。

かつての名物行事「獅子殺し」

劔地八幡神社大祭の特徴のひとつは、獅子舞が出ることです。神社の前で練り広げられる「獅子殺し」の舞いでは、天狗が獅子に馬乗りになって登場し、華麗な舞いで獅子を退治。その後、神輿が神社の中へ還り、祭りはフィナーレを迎えます。

ここ数年は、人手不足により獅子舞は行われておらず、今後の再開が待ち望まれます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 神輿とキリコ、獅子舞が並んで巡行
- 神輿とキリコを頭上高く掲げて力強く練り歩く
- 神社前で練り広げる天狗による「獅子殺し」

開催日／7月「海の日」直前の土曜日・日曜日
場所／輪島市門前町劔地地区
問い合わせ／輪島市 観光課
☎0768-23-1146



①黒漆と提灯の簡素な装飾のキリコです。
②迫力ある「獅子殺し」の演技。



キリコラム 「おさよ」と「重蔵」の悲恋の物語

その昔、この地に住んでいた娘「おさよ」は輪島の船乗りの「重蔵」と恋仲になります。ところが、風の便りで重蔵の死を知り、自らも海に身を投げてしまいました。やがて、おさよは門前町の黒髪神社にまつられ、年に一度、二人が再会するのがこの祭りといわれています。



歩くとキュッキュッと音がする「琴ヶ浜」。夕刻の景色も見事。

宝立七夕キリコまつり

ほうりゆうたなばたきりこまつり

巨大キリコが松明を目指し 夜の海を勇壮に乱舞



吹き流しや風鈴を飾った大キリコ

能登のシンボル「見附島(軍艦島)」がある珠洲市宝立町鵜飼地区。七夕は盆の準備を始める日で「七日盆」ともいい、この地区のキリコ祭りは七日盆に祖先の霊を迎えるためのものといわれています。

高さ約14mのキリコは能登のキリコの中でも最大級。車輪などはつけず、約100人で担いで巡行します。屋根の四隅に吹き流しをつるし、風鈴、提灯、雪洞(ぼんぼり)、笹などが飾りつけられたキリコは、海風を受けて涼しげに踊ります。

勇壮さの中に現れる幽玄のひととき

午後6時頃、鵜飼川河口の広場に集まった大キリコ6基と高さ約6mの子どもキリコ1基が川沿いを巡行。午後10時過ぎには、見附海岸に勢揃いします。すると、すべてのキリコが明かりを消し、あたりは静寂の闇に包まれます。その後、キリコには1基ずつ明かりがつけられ、描かれた絵や字が順番に紹介されます。打ち上げ花火を合図に、沖合20〜30mに設置された柱松明を指し、キリコがいつせいに海に入ります。何百人もの担ぎ手が水しぶきをあげ、松明の周りを巡って乱舞します。

鉦や太鼓の囀りははるか遠くから聞こえてくるかのように。キリコの灯が海に揺らめき、勇壮さの中に幽玄なひと時をつくりだし、海岸を埋めつくした観客の間からため息がもれます。海中乱舞が始まると同時に、海上から花火が上へ、横へと打ち上げられ、華麗な光の絵巻が繰り広げられます。

能登人からの一言メッセージ

浜に勢ぞろいした各町内のキリコが一斉に夜の海へと担ぎ出され、燃え盛る沖の松明をめざす。鵜飼の海中渡御は勇壮そのもので見応え十分。夜空に大輪の花火が上る頃、祭りは最高潮を迎え、見守る聴衆は思わず息をのむほど。半島の先端で行われる盛大な七夕祭り、これは必見だ。



石川県観光
スペシャルガイド
藤平 朝雄さん
ふじひら あさお

能登半島広域観光協会相談役。
元キリコ会館館長。



①



②

①キリコに飾られた吹き流しや笹は七夕に由来しています。
②キリコが海中で倒れないように「ハンドナワ」と呼ばれる綱を引く若者達。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 涼やかな飾りをつけた高さ約14mの大キリコ
- 約100人で担いで海中を勇壮に乱舞
- 波に揺らめくキリコと花火が描く光の絵巻

開催日／8月7日
場所／珠洲市宝立町鵜飼地区
問い合わせ／珠洲市 観光交流課
☎0768-82-7776

飯田町燈籠山祭り

いいだまちとろやままつり

12

絢爛豪華、巨大な燈籠山が
曳山とともに堂々の巡行



人形を乗せた曳山「燈籠山」

珠洲市の中心部に位置する飯田町。春日神社の夏季例祭は、暑さきびしい土用の折、神様に夕涼みにお出まししたく祭り。江戸時代の寛永年間に始まったと伝えられています。

祭りの華は3基の絢爛豪華な「燈籠山」。てっぺんに約6mの人形を掲げた、高さ16m、重さ約5トンの巨大な曳山です。下から地山(じやま)、屋台(やたい)、枠障子(わくしょうじ)、小台(こだい)、大台(おおだい)、人形と重ね上げ、数多くの高張り提灯を飾り付けています。人形のルーツは諸説ありますが、青森の立ちねぶたが起源ともいわれています。

川面に映し出される幻想世界

祭り初日の夕方、白木の台車に神を立てた「神輿」が燈籠山3基と曳山6基をお供に海岸近くのお飯屋へ渡御。神事を終えると、燈籠山と曳山は連なって町内を巡行します。燈籠山の上の人形が左右に大きく揺れ動いて、迫力満点。宵闇が濃くなると、燈籠山の明かりがいつそう艶やかに輝き、祭りは活気づきます。午後8時を回る頃、若山川にかかる吾妻(あづま)橋に、燈籠山と曳山が1列に並びます。やがて、火花が打ち上がると、夜空は光の絵具を散らしたかのように。川面には燈籠山の明かりと火花が映り込み、まるで幻想の世界に迷い込んだかのようです。

「きゃーらげ」と呼ばれる祭り唄が味わい深く、祭りを盛り立てます。「木遣り唄をあげる」が訛って名づけられたといわれ、町によって、歌詞が異なることも趣があります。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 人形を掲げ多数の提灯を飾った華麗な燈籠山
- 燈籠山と曳山の明かりが映る川面の美しい眺め
- 味わい深い祭り唄「きゃーらげ」の節回し

開催日／7月20日・21日
場所／珠洲市飯田町
問い合わせ／珠洲市 観光交流課
☎0768-82-7776



① 豪華絢爛な「燈籠山」。山車の上には6mもの人形が掲げられています。
② 数多くの提灯が飾り付けられた曳山。



珠洲市立珠洲焼資料館



中世に焼かれ、姿を消した幻の陶器・珠洲焼の美と歴史を紹介。

禄剛崎



能登半島の先端にあり、朝日と夕日の両方が見られる珍しい場所。

見附島



高さが約28mの絶壁でまるで船のよう。「軍艦島」の呼び名も。

珠洲市
寄り道スポット

寺家キリコ祭り

じけきりこまつり

13

屋根の大きさは畳12枚分 豪華絢爛な巨大キリコ

そびえ立つキリコの雄姿

奥能登の珠洲市三崎町寺家地区は、往時、北前船が寄港し賑わった港町。紀元前に創建されたと伝わる古社・須須(すず)神社の秋祭り「寺家キリコ祭り」は、巨大なキリコが出ることで知られています。

最大のキリコは県木のアテ(能登ヒバ)でつくられ、高さ16.5m、重さ4t、屋根の大きさは畳約12枚分もあります。また、大きいだけではなく、輪島塗で仕上げられ、屋根や柱は金箔貼りの精巧な龍の彫刻などで飾られており、意匠にも見どころがあります。祭りの夜、神社に4基のキリコが勢ぞろいすると、まさにそびえ立つという風情。雄々しく、絢爛豪華な姿に圧倒されます。

毎年この大型キリコを繰り出すのは大変な作業。ふるさとへの思いや祭りに対する誇りが強いエネルギーとなり、町を出て生活している若者も、祭礼には帰省して祭りに参加します。

夜通しで巡行し朝を迎える

午後9時、暗闇の中で厳粛に「神移し」の神事が執り行われると、神輿の前後にキリコがついて巡行が始まります。神輿が各家を回る間、巨大なキリコは大通りで太鼓や鉦などを鳴らしながら神輿を待ち、合図のホラ貝が吹かれると動くというように、巡行はゆっくりと翌朝まで続きます。

朝日が昇り始める頃、キリコは海岸沿いに整列。明け方の浜辺で、鈴なりの提灯をつけたキリコが朝焼けでオレンジ色に染まる姿は得も言われぬ美しさです。

キリコラム

キリコを担ぐ若衆のド派手な「ドテラ」

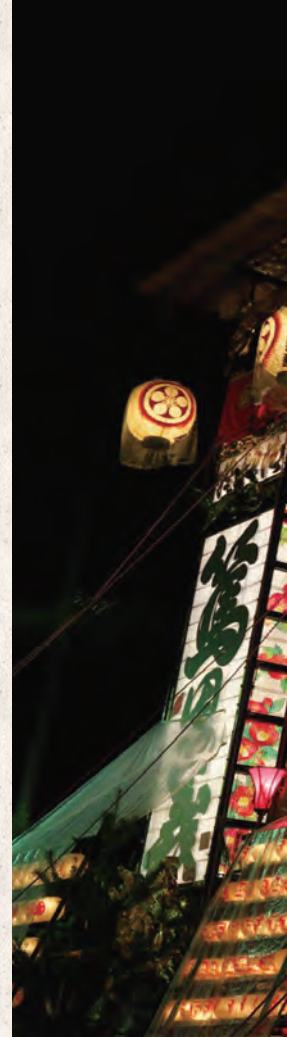
珠洲一円のキリコ祭りでは、若衆が「ドテラ」と呼ばれる派手な衣装を着てキリコを担ぐ風習があり、市内にはドテラ専門店もあるほどです。色とりどりの柄は見た目も華やか。相撲取りの化粧回しのような豪華な刺繍が施された「化粧前掛け」をつける地域もあり、祭りを粋に演出します。



「ドテラ」をまとった伊達男たち。ここ一番の誇らしげな表情が印象的。

巨大なキリコが勢ぞろい。最大のものは高さ16.5mもあります。灯りがともると迫力満点、圧倒されます。





- ① キリコに灯りがともりいよいよ巡行。神輿に供奉する緊張感が伝わってきます。
- ② 闇を照らし、浮かび上がるキリコは光の壁のよう。
- ③ 火のついた稲わらを豪快に駆け抜ける「火渡りの神事」。
- ④ 町をゆったりと巡行するキリコの行列。

【寺家のキリコについて】

熊澤 栄二



寺家には4基の大キリコが保有されており、その中でも最大のもは、塩津上野の集落が保有するキリコで、その高さは16.5mにおよび、重量も4t、屋根の部分の面積も12畳という。また、やや小振りではあるが、大浜の集落のキリコは、四本柱に金箔を押した彫りの深い昇り竜・降り竜が装飾されており、その豪華さに圧倒される。4基のキリコはいずれも総漆塗りで、屋根裏の天井鏡板および御幣付近の四本柱は、重厚な龍の彫り物と金箔で飾られている。

塩津上野のキリコの欄干部分は、擬宝珠(ぎぼし)高欄とし、随所に金具で装飾されており、細部も見応えがある。四本柱は貫(ぬき)で棧が留められているが、その木鼻(きばな)の部分も丁寧に雲紋の線形に彫り込まれている。「ナカフク」(奉灯)の側面に目を転ざると、飾りの部分に格狭間(こうざま)の意匠もあつらえられており、細部にわたり見る者を飽きさせない。また、平成21年に佐藤俊介氏(金沢美術工芸大学・日本画)が制作したキリコ絵も興味深い。地元の「獅子岩伝承」をテーマに、獅子に乗って海を渡る女神の姿を描いており、従来の観音菩薩とは異なる斬新なキリコ絵は見どころの一つであろう。

炎の浄化、火渡りの神事

夜が明けきると、神輿とキリコは須須神社に戻り、「火渡りの神事」が行われます。参道に約100mの長さに敷かれた稲藁に火をつけて、2基の神輿が火の上を一気に駆け抜けます。藁の火が残っている間は何度も行ったり来たり駆け抜け、宮入します。その後、キリコは1基ずつ、祭りの終わりを惜しむかのように激しく練り回ります。



ココがみどころ【感動ポイント】

- 金箔張りの彫刻で飾られた絢爛豪華な巨大キリコ
- 朝焼けの中で見えるキリコの美しさ
- 勇壮な「火渡りの神事」

開催日 / 9月第2土曜日
 場所 / 珠洲市三崎町寺家地区
 問い合わせ / 珠洲市 観光交流課
 ☎0768-82-7776

蛸島キリコ祭り

たこじまきりこまつり

14

漁師町の心意気、 力強く担ぐ豪奢で華麗なキリコ

白塗りに派手な衣装で担ぐ

県内有数の漁港として知られる珠洲市蛸島町。高倉彦神社の秋祭りであるキリコはまるで動く芸術品。見事な彫り物で装飾され、金箔をふんだんに使った総漆塗りで、能登のキリコの中でも飛び抜けて美しいといわれています。また、担ぎ手が神勅の猿を模して顔を白塗りにし、「ドテラ」と呼ばれる派手な衣装と長い前掛けをつけた姿も独特です。

祭りの初日は、昼の巡行の後、各家で「ヨバレ」の席が設けられ、親類や知人が一緒に料理の膳を囲むのが習わし。夜9時を回ると、キリコが集まり、夜が更けるまで、再び町内を練り回ります。

江戸文化の華「早船狂言」

2日目は、家の前の道路を塩で浄め、太鼓を載せた山車の「太鼓山」やキリコとともに神輿が渡御します。夜、神社の神楽殿で演じられる「早船狂言」も見逃せません。

江戸時代中期から漁業や交易で栄えた蛸島では、伝わってきた流行の歌舞伎や歌曲を、古くからの早船行事(朝廷からの勅使の送迎のため早船を出した)に取り入れて、独自の狂言が生み出されました。この「早船狂言」では、新成人を迎える男子3名が、芸者に惚れ込み一向に船を出さない船頭と出航を勧める水夫の掛け合いを軽妙に演じます。

狂言が終わるとキリコが乱舞。威勢よく担ぎ上げ、上下させながら練り回る姿は豪快で、漁師町の心意気があふれます。

早船狂言の名場面。
船頭に早く船を出せと迫る水夫に、掛け声とともに舞う紙吹雪。

能登人からの一言メッセージ

「早船狂言」を演じるのは20歳の男子3名。町を出て暮らす同級生たちも帰省し、掛け声などで場を愉快地に盛り上げます。祭りで完全燃焼した後は「次は365日後」を合言葉に別れていきます。絆を深める名物行事を、ぜひご覧ください。



写真家
松田 咲香さん
まつだ さきが

平成25年に故郷の珠洲にUターン。以来、能登の祭りや住民の関わりをテーマに撮り続けている。



①



②

①豪華絢爛な蛸島のキリコ。総漆塗で豪華な彫り物が施されています。
②「ドテラ」姿の若衆が町内を威勢よく練り回ります。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 贅をこらした華麗な漆塗りのキリコ
- 白塗りに派手な衣装を身につけた担ぎ手の扮装
- 新成人男子が演じるユーモラスな「早船狂言」

開催日／9月10日・11日

場所／珠洲市蛸島町

問い合わせ／珠洲市 観光交流課

☎0768-82-7776

正院キリコ祭り

しょういんぎりこまつり



15

艶やかなキリコに魅了され、「奴振り」の粋な姿に拍手

囃子と鈴の音がキリコに華を添える

珠洲市正院町正院地区に鎮座する須受八幡宮の秋祭りは、奇抜な格好をした若者による「奴（やつこ）振り」で知られています。

祭り初日の夕刻、各地区が誇る艶やかなキリコが勢揃いし、明け方近くまで町内を巡行します。お囃子は篠笛と太鼓。鉦留めの平太鼓がキリコに吊り下げられ、賑やかに打ち込まれます。鈴をつけた若衆が威勢のいい掛け声とともに、ゆさゆさ揺らしながら曳きまわします。

勇壮な「奴振り」の道中絵巻

2日目は午後から「奴振り」。「ドテラ」に化粧前掛けをした若者が、手に「シャンガ」と呼ばれる毛槍を持って、木遣り風のゆったりと唄うような掛け声とともに、行列をなして地区内をくまなく行進します。腕を大きく横に広げて行ったり来たりする奴姿は、正院の整然とした街並みと相まって、まるで道中絵巻のようです。

目貫通りの大町通りで、シャンガを向かい側の相手に放り出す妙技は見逃せません。合図の音で、向かい合わせになり、掛け声に合わせて、一斉に向こう側へ高く放り出すと、シャンガは放物線を描き相手方に。粋で勇壮な技に見物客から歓声が上がります。

夜、行列が神社に戻ると、八幡太鼓が奉納され、神社に集合していたキリコは乱舞しながら各地区へ帰っていきます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 絢爛豪華なキリコが夜を徹して巡行
- キリコを揺らしながら練り歩くと、独特の曳きまわし
- 派手な装束の若者達が妙技を見せる「奴振り」

開催日／9月14日・15日

場所／珠洲市正院町

問い合わせ／珠洲市 観光交流課

☎0768-82-7776



① 須受神社での「奴振り」奉納時のひとコマ。

② ぎらびやかな飾りをつけた各地区のキリコが並びます。



キリコラム

加賀藩主・前田家ゆかりの「奴振り」

正院キリコ祭りの須受八幡宮の由緒書には、加賀藩初代の前田利家公が土地を寄進したことや、前田家が能舞台を再建し、その道中に「奴振り」の行列を整えさせたことが記されています。また、嘉永6年(1853年)の12代藩主・前田斉泰公の能登巡国の折に、奴振りで迎送り賞詞をいただいたとも伝わっており、前田家ゆかりの行事として、この地に長く受け継がれています。



「奴振り」。暗くなるまで道中は続きます。

西海祭り

さいかいまつり

16

華やかに、勇ましく
女性が活躍するキリコ祭り



そろいの白い前掛けをつけた女性が、楽しそうにキリコを担ぎ上げます。

坂道を駆けのぼって乱舞

能登有数の漁業基地である志賀町西海風無地区(西海神社と西海風戸地区(松ヶ下神社)の合同で行われる西海祭りは、大漁と航海の安全を祈願する祭りです。かつて出漁や航海で不在がちな男性に代わり女性が祭りに参加するようになったことから、伝統的に女性もキリコを担ぎ出すのが大きな特徴です。

日本海に日が沈む頃、地元の「冨木神幸(みゆき)太鼓」が打たれると、祭りが始まります。神輿とキリコは、祭り唄を唄いながらそれぞれの地区を練り歩きます。

やがて両地区の境にあたる五叉路で合流すると、祭りの最初の見せ場です。キリコが一基ずつ坂を一気に駆け上がり、順番に激しく乱舞。男性の勇壮な担ぎぶりに負けず劣らず、ここでも女性が大活躍。浴衣に腰巻、白い前掛けのいでたちの女性たちがエネルギーにキリコを担ぐ姿に、見物客からも歓声が上がります。

神輿とキリコがせめぎ合う

興奮さめやらぬまま、それぞれの神社に戻る、今度は神輿とキリコの競り合いが始まります。キリコや地元の世話人は、祭りを終わらせないうち、神輿が拝殿に入るのを何度も何度もねかせします。神輿とキリコが入り乱れ、境内は熱気の渦に包まれます。

いつ果てるともみならず繰り返される乱舞は、見応え十分。漁師町ならではの勇ましい祭りは真夜中まで続きます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 女性が担ぐ、華やかで勇ましいキリコ
- 坂道を駆けあがって勇壮に練り広げる乱舞
- 神社での神輿とキリコの激しいせめぎ合い

開催日／8月14日

場所／志賀町風戸・風無

問い合わせ／志賀町 商工観光課

☎0767-32-1111



- ①キリコの「差し上げ」。腕を精一杯あげて、キリコを頭上高く持ち上げます。
- ②神輿の宮入りを妨げようと、キリコと神輿が押し合いへし合い。



キリコラム

女性は浴衣に前掛け、男性は白シャツにゲートル

西海祭りは独特の装束でキリコを担ぎます。女性は未婚なら赤、既婚なら桃色の腰巻に浴衣、さらに白い前掛けをつけます。男性は白のワイシャツとズボン、黒チョッキにゲートル。船員として出稼ぎに出た男たちが、休暇で家に帰ると当日が祭だったので、上着だけ脱いで祭りに参加したのが由来だといわれています。



みんなお揃いの前掛けに腰巻姿、色鮮やかで華やかです。

富木八朔祭礼

ときはっさくさいれい



「お旅祭り」のクライマックス。住吉神社の境内をキリコと神輿が乱舞します。

17

約30基のキリコが彩る 男神と女神の一夜の逢瀬

男神と女神の出会いの伝説

志賀町富来地区の増穂浦海岸は、さくら貝が流れ着く日本の「小貝三名所」として知られています。その昔、増穂浦に漂着した男神が住吉神社の女神に助けられ、夫婦になりました。ところが、荒波の音に我慢できなくなった男神は、山手に宮居（富木八幡神社）を移してしまっただけです。

その後、年に一度（旧暦の八月朔日）、女神との逢瀬のために、男神を御輿に乗せて渡御したことが富木八朔祭礼の始まりといわれています。

キリコの宮入りを競う

祭りの初日「お旅祭り」は、約30基のキリコが、男神を乗せた神輿を迎えに、富木八幡神社まで「富木八朔祭礼唄」を唄いながら練り歩きます。キリコが、参道の両側を埋める見物客をかき分けて、境内へ駆け上がる様子は、圧巻の眺めです。この時、キリコの優美さや担ぎ手の勇壮さなど、宮入りの様子が競われます。神事を終えると、住吉神社の女神の元へ巡行が始まります。太鼓と鉦が独特のリズムを打ち鳴らす中、約2キロの夜道をキリコの列が進みます。深い余韻を残して1日目が終わります。

2日目は、神輿が主役の「本祭り」。男神を乗せた神輿と地区の神輿が増穂浦へ集まります。11基もの神輿が列をなし、白砂青松の海岸を渡御する「浜廻り」は壮観です。

ココがみどころ【感動ポイント】

- ロマンティックな神々の逢瀬の祭り
- 初日の主役はキリコ、約30基が夜道を巡行
- 2日目の主役は神輿、11基による壮観な海岸渡御

開催日／8月最終日曜日とその前日
場所／志賀町富来地区・東増穂地区・稗造地区
問い合わせ／志賀町 商工観光課
☎0767-32-1111

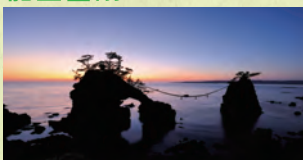


①太鼓と鉦も独特のパフォーマンスを見せながら道中を巡行します。
②本祭りの見どころ「浜廻り」。11基の神輿が並びます。



志賀町
寄り道スポット

能登金剛



断崖、奇岩、白砂青松の浜など多彩な海岸の景勝が楽しめる。

「世界一長いベンチ」



増穂浦海岸にあるベンチに座って日本海に沈む夕日を眺めたい。

甘エビかご漁



甘エビを傷めることなく獲る西海地区独特の漁法。1～3月限定。

沖波大漁祭り

おきなみたりりようまつり

18

青空のもと、海の中で
キリコが豪快に暴れ回る

海中で勇ましく乱舞するキリコ。
乱舞にあわせて、ますます太鼓を打ち鳴らします。



漁師町ならではの勇壮な祭り

穴水町沖波地区で開催される沖波大漁祭りは、夜間に最高潮を迎えることが多い能登のキリコ祭りには珍しく、日中が見どころの祭りです。沖波諏訪神社のご神体が海からの漂着神であるという言い伝えから、キリコを海中に担ぎ込んで禊を行い、大漁と海の安全を祈願したのが祭りの由来となっています。

祭りの初日、夜に花火が打ち上げられると、キリコが沖波諏訪神社で神輿を迎え、集落を練り歩きます。その後、神輿を中央にして恵比寿崎にある恵比寿神社まで移動。乱打される太鼓や鉦の音にのって、「ヤッサイヤッサイヤッサイカ境内を乱舞します。

胸まで海に浸かって乱舞

2日目の朝、遠浅で知られる「立戸の浜」にキリコが勢ぞろいすると、地元には伝わる「沖波大漁太鼓」がリズムカルに打ち鳴らされ、笛の合図とともに1基ずつ海へ。担ぎ手は胸まで海に浸かって、豪快に暴れ回ります。キリコの上で打たれる太鼓がますます激しくなる頃、キリコは水を含んでずしりと重くなり、肩に食い込んできますが、担ぎ手は意気高揚、ものともせずさらに激しく海中を乱舞。水しぶきがあがり、夏の陽射しにきらめきます。やがて笛が鳴らされると、禊を終えたキリコは砂浜に戻ります。夏空のもと、勇壮さとともに能登の青い海の美しさも堪能できる祭りです。

ココがみどころ【感動ポイント】

- キリコ祭りでは珍しく日中が見どころの祭り
- 青空のもと、海中でキリコが勇壮に乱舞
- 「海有幸」「群魚舞」など漁師町らしい吉祥文字

開催日／8月14日・15日
場所／穴水町沖波
問い合わせ／穴水町 政策調整課
☎0768-52-3790



- ① 青空のもと、キリコを勢よく海に担ぎ込みます。
- ② 沖での禊に、担ぎ手は胸まで海につきり、お神酒を交わします。



キリコラム

カラフルな短冊を飾りつけたキリコ

沖波のキリコは高さ約7m。2階建ての家くらいの大きさで、屋根にカラフルな短冊が取り付けられているのが特徴です。短冊は七夕飾りが由来ではないかと言われていますが、よくわかりません。禊が終わると、氏子たちはこの短冊を家に持ちかえり、神棚に供える習わしがあり、祭り与人々の暮らしの結びつきが感じられます。



色とりどりの短冊は七夕の五色(赤・青・黄・白・黒)に由来していると言われています。

大町・川島祭り

おおまち・かわじままつり



19

現代風の飾りも取り入れた キリコと山車が練り歩く

光の帯になって賑々しく巡行

穴水町中心部に位置する大町地区の穴水大宮（辺津比咩神社）と川島地区の白山神社（美麻名比古神社）は、どちらも古い歴史を持っています。両神社の例祭「大町・川島祭り」は同じ日に開催され、それぞれの地区から神輿3基とキリコ11基、山車10基が曳き出される穴水町最大のキリコ祭り、町中が賑わいます。

祭りは、午後9時頃、地区内を巡行したキリコや山車がメインストリートの「大町・川島本町大通り」に集結。列をなして大通りを進む光景は、祭りの見どころのひとつ。キリコと山車につけられた提灯や奉灯で、長い光の帯ができたかのようです。「ソレ、イヤサカヤッサイ、サカヤッサイ」の掛け声も勇ましく、笛と鉦、太鼓の囃子が盛り上げます。

現代風の工夫が楽しい

よく見ると、キリコの胴体部分を引っ張って支える綱に光物や鈴、テルテル坊主がつけられ、地区ごとに工夫がこらされています。子ども達を乗せた山車にも注目です。長方体の山車の屋根の上に大きな人形を乗せています。武者人形だけでなく、流行りのキャラクターなどが紙張りでつくられて堂々と鎮座。伝統的な祭りに現代の文化が上手に融合しています。山車の照明には子ども達が描いた絵も飾られ、大人も子どもも一緒に楽しもうという、地域の人達の暖かい気持ちも伝わってくる祭りです。



子ども達もキリコを担ぎ、一緒に巡行します。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 穴水町最大規模のキリコ祭り
- キリコ11基と山車10基が光の帯のように巡行
- 山車に乗せた人形は流行りのキャラクターも登場

開催日／9月第2土曜日

場所／穴水町大町・川島

問い合わせ／穴水町 政策調整課

☎0768-52-3790

穴水町
寄り道スポット

まいもんまつり



四季折々、穴水自慢の食材を統一メニュー・料金で味わえる。

ボラ待ちやぐら



江戸時代から続くボラ漁では海中に建てた櫓から群れを見張った。

のと鉄道観光列車 「のと里山里海号」



専任のアテンダントが沿線を案内。車窓の景色を眺めながら、のんびり旅を満喫。

キリコが勢ぞろいする姿は壯観。
丸い提灯の灯りに短冊が照らし出されます。

前波曳山祭り

まえなみひきやままつり



20

キリコが出迎え、曳山が送る 熱い思いが伝わる秋祭り

五穀豊穡と大漁を祈願

穴水町前波地区にある諸橋稻荷神社の秋祭りは、五穀豊穡と大漁を祈願する祭りです。もともとは曳山が神輿を先導していましたが、明治時代にコレラが流行し、悪霊疫病の怒りを鎮めるため、キリコも担ぎ出すようになったといわれています。初日はキリコが、2日目は曳山がそれぞれ神輿の先導役を担うのが、前波の祭りの特徴です。

夜、地区のキリコは神社に集合します。キリコは穴水町周辺によくみられる「短冊キリコ」で、天井に色とりどりのたくさん短冊がつけられています。神前からいただいた火でともした灯籠を飾ると、乱舞が始まります。境内をぐるぐる回り、各地区の担ぎ手が勢いよく張り合います。ひとしきり舞うと、神輿を守るように前後にキリコが並び、太鼓と笛の音も賑々しく町内を巡行。神輿がお旅所を目指し、急ならせん状の階段を力強く上っていく際には、見物客から大きな歓声が沸きあがります。

神輿と曳山の駆け引きで締めくくる

祭りの2日目は、子ども達の元気な太鼓演奏が始まります。この日は、台形の舞台に人形を飾った曳山が、神輿を先導して町内を巡行します。物語や歴史から題材をとった人形は毎年つくりにかえられ、祭りのお楽しみのひとつです。

午後4時には、海岸近くで大漁祈願の神事が行われ、夜に宮入り。しかし、曳山は神輿が神社に入ることを簡単には許しません。曳山と神輿が何度も駆け引きを繰り返して、祭りの夜は最後まで盛り上がります。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 初日はキリコ、2日目は曳山が神輿を先導
- 短冊をつけた穴水町独特のキリコが乱舞
- 毎年、工夫をこらした人形を飾る曳山

開催日／9月第3土曜日・日曜日
場所／穴水町前波地区
問い合わせ／穴水町 政策調整課
☎0768-52-3790



① もう一方の主役の曳山。
② 白木のキリコの上では太鼓がお囃子を刻みます。



キリコラム

キリコがあったら、曳山は出ないの？

曳山は祭礼の際に引いたり担いだりする出し物の総称。能登ではキリコがどんどん風流化し大きくなったため、曳山を出すことが少なくなりました。現在でもキリコと曳山が一緒に出る祭りは、「前波曳山祭り」「大町・川島祭り」「富木八朔祭り」などです。春は曳山、夏はキリコと区別している地区もあります。



富木八朔祭礼の曳山。曳山の飾りは、歴史や物語から多くとられています。

明千寺キリコ祭り

みょうせんじきりこまつり

21

キリコが後ろ向きで巡行
由緒ある神社に伝わる祭り

短冊をさげた白木の大キリコ

穴水町明千寺地区の白雉神社は、奈良時代に創建され、弘法大師も修行したと伝えられる「明泉寺」の守護社として建立されました。

夏の祭礼に奉納されるのは、たくさんの短冊をつけた白木造りのキリコ。穴水町で最大といわれる高さ約9mのキリコが、宮入りする神輿を送るために、神社の長く急な石段を担いで上る習わしがありました。

祭りは、キリコが地区を練り歩いた後、神社へ神輿を迎えに行き、お旅所まで先導します。この時、キリコは神様に失礼にならないよう、神輿に正面を向け、後ろ向きで進みます。

近年は人手が足りないため、キリコは最大の1基のみ。神社の石段を上って神輿を送ることも行われなくなりましたが、町内を練り歩く氏子達の祭りへの思いは今も昔も変わることはありません。



凜として佇む白木のキリコ。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 清々しさが漂う高さ9mの白木造りのキリコ
- 神輿に背を向けないよう、キリコが後ろ向きで巡行
- のどかで素朴なキリコ祭り

開催日／8月15日・16日

場所／穴水町明千寺地区

問い合わせ／穴水町 政策調整課

☎0768-52-3790

中居キリコ祭り

なかいきりこまつり

22

鑄物で栄えた歴史の町
秘蔵の屏風を披露し合う

五穀豊穣を願う御幣を奪い合う

穴水町中居地区は、平安時代から鑄物生産で知られ、高度な技術をもつ鑄物師を輩出してきました。今も残る古い家並みに、鑄物の町としての歴史を感じることが出来ます。

8月の終わりに開催されるキリコ祭りは別名を「屏風まつり」といい、祭りの間、訪れる人々に見てもらうために各家が祭壇をつくり、自慢の屏風を飾ります。風流な書画や金屏風など、大切に守ってきた家のお宝です。

宵祭りは午後8時頃、神社にキリコが集結します。神輿がキリコと山車とともに巡行し、地区特有の祭り唄「中居囃し」を唄いながら家々を回ります。午後10時を過ぎる頃、河畔の広場に立てられた柱松明に火がつけられ、若衆たちが柱松明の上につけられている御幣を奪い合い、クライマックスを迎えます。御幣を取った集落は五穀豊穣になるといわれています。

「中居囃し」をあげながら、キリコは静かに夜の町を巡行します。



お宝の屏風の前には祭壇がつくられ、御神燈が置かれます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 別名「屏風まつり」、家々の自慢の屏風を鑑賞
- 独特の祭り唄を唄いながら巡行する神輿
- 川のほとりで勇壮に御幣を奪い合う

開催日／8月最終土曜日

場所／穴水町中居地区

問い合わせ／穴水町 政策調整課

☎0768-52-3790

あばれ祭

あばれまつり



「いやさか広場」に集まったキリコは、松明の火の粉がほとぼしる中、激しく練り回ります。

23

能登のキリコ祭りの先陣

キリコも神輿も大暴れ

疫病退散を感謝して始まった祭り

定置網漁の基地として知られる能登町宇出津地区。7月最初の土・日曜、能登のキリコ祭りのトップバッターとして行われるのが、宇出津・八坂神社の祭礼「あばれ祭」です。

江戸時代の寛文年間、この地で疫病がはやり、京都の祇園社（八坂神社）から牛頭天王を勧請し、盛大な祭礼を行いました。そのとき大きなハチがあらわれて、病人を刺したところ、たちどころに病が治りました。地元の人はこのハチを神様の使いと考えて感謝し、大きなキリコをつくって「大泥棒ボー、ハチや刺いた」とはやしながら練り回ったというのが、あばれ祭の始まりとされています。

勇ましいことを好む牛頭天王を喜ばせようとキリコや神輿が激しく暴れ回り、数あるキリコ祭りの中でも、飛びぬけて豪快なことで知られています。

港に40基以上のキリコが林立

祭り初日の主役はキリコです。朝、この地区の産土神社である白山神社（宇出津港の東側）と酒垂神社（港の西側）が八坂神社で神事を終えた後、それぞれの神輿が氏子の町内を渡御。キリコも動き出し、棚木海岸（港の東側）に向かいます。夕刻には全町約40基のキリコが林立し、壮観な眺めが広がります。

午後9時、花火が打ち上がると宵祭りの始まりです。キリコは能登町役場前の「いやさか広場」へ。キリコの入場とともに高さ7mにもなる5本の柱松明に火がつけられ、松明の周りを勇壮に乱舞します。「テンコテンテンテコテンテン」という太鼓の音に合わせ、「イヤサカヨッセ、サカヨッセ」と囃しながら、ひたすら練り回ります。燃え上がる炎と降りかかる火の粉に担ぎ手のみならず観客の気分も高揚し、祭りのムードは最高潮に達します。



約40基ものキリコが町内を渡御します。

キリコラム

神輿を担ぐのは若衆の誉れ

あばれ祭で「あばれる」のは、酒垂神社と白山神社の2基の神輿で、各々30人で担ぐことが決まっています。この担ぎ手は暴れ神輿が始まる1時間ほど前に各町内から選出。選ばれると黄色いたすきを与えられ、たすきをつけない者は神輿に触ることが許されません。



あばれ神輿を担ぐ栄誉を受け、若者たちはますます意気盛んに。



- ① 「置き松明」の中に放り込まれる神輿。
- ② 川の中に投げ込まれる神輿。
- ③ 町を巡行するキリコ。軒先や電線をかすめながら進みます。
- ④ 松明の周りを、火の粉をあびながら練りまわります。



【「あばれ祭」の魅力】

藤平 朝雄



暴れるほどに魂が甦る。全てが驚愕のオンパレードだ。神輿は、海中に投げ込まれるのを皮切りに、お旅の路上でも、道路に叩きつけられ激しい放水を浴びせられる。橋の上から川に放り込まれ、揉みくちの水責めにあう。さらに、八坂神社への宮入り前には、赤々と燃える「置き松明」に投げ込まれ、壮絶な火責めを受ける。その名に違わぬ暴れぶりだ。

一方で、キリコも威勢がいい。柱松明が燃え盛る中、火の粉を浴びながら勇壮に担ぎまわる。約40基というキリコの多さも圧巻だ。宇出津地区あげての大祭なので、担ぎ手と囃子方だけでも2,000人を超え、「いやさか広場」は熱狂の渦に飲み込まれる。

宇出津は能登有数の港町だ。往時、おびただしい船と人の出入りで、様々な疫病も流行ったであろう。土地の人々は、疫病退散と地域の繁栄を願い、営々と祭りを営んできた。あばれ祭りの魅力、それは、まさしくエネルギーの爆発。祭りの日の破天荒ともいえる暴れぶりに、誰もが神と人が一体化する光景を見出すことができるだろう。

ココがみどころ【感重ポイント】

- 約40基のキリコが大松明の周りを勇壮に乱舞
- 神輿を火攻め水攻めにする豪快な暴れぶり
- 能登特産木材アテを使った白木造りのキリコ

開催日／7月第1金曜日・土曜日
 場所／能登町宇出津地区
 問い合わせ／能登町 ふるさと振興課
 ☎0768-62-8532

盛大に、はてしなく神輿が暴れまわる
 2日目、神輿はキリコを前後に従えて八坂神社に向かつて出発。「チヨース、チヨース」の勇ましい掛け声とともに、担ぎ手達は神輿を海や川に投げ込んだり、火の中に放り込むなど、思う存分大暴れ。中でも、梶川橋の上から神輿を川に投げ込み、水中で神輿を転がしたり上に乗ったりする豪快な暴れっぷりは、祭りのハイライト。神社に到着してからも、炎を上げる「置き松明」の中に神輿を放り込み、火の粉が舞い飛ぶほど容赦なく痛めつけます。神輿を宮入りさせたい者と阻む者がせめぎ合い、何度も火中へ。神輿が拝殿に入る頃には深夜2時を回り、祭りはいよいよやくファイナルを迎えます。

キリコラム

静と動、祭りの二つの表情を楽しむ

初日の宵祭りで練り広げられるキリコの乱舞は迫力満点、まさに「動」の魅力です。昼間のキリコにも注目。宇出津地区は小路が入り組んでおり、細い道をキリコがたくみに通り抜けていくさまは見事です。また、榎木海岸にキリコが勢ぞろいした様子は堂々のたたずまい、「静」の美を感じることでしょう。

弁天島を舞台に繰り広げられる灯りの競演。
漆黒の間にロマンティックな世界が浮かび上がります。

恋路火祭り

こいじひまつり

24

かがり火が夜空を焦がす 悲恋伝説がルーツの火祭り

年に一度の恋人達の逢瀬

能登内浦に位置し、穏やかな海が広がる能登町恋路海岸。「恋路」の名は、この地に伝わる悲恋の物語に由来します。いつの時代からか、恋人達の霊を慰めようと、村人がかがり火をたいたのが恋路火祭りの始まりといわれています。

祭りの日、男女に見立てた大小2基のキリコが恋路海岸へ。若衆達はキリコを担いで海に入り、沖に浮かぶ弁天島に向かって勢いよく進みます。島の真上に花火が打ち上がるというよほ活気づき、キリコが海中で威勢よく乱舞します。花火を背景にした海中のキリコはとても幻想的で、美しい光景が広がります。

夜の海に浮かぶ灯りの競演

弁天島の赤い鳥居の前に2基のキリコが置かれると、恋路地区独特の「油モノ」と呼ばれる仕掛け火が燃え上がります。油モノは毎年異なる言葉を仕込んでつくられ、どんな文字が現れるのか想像するのも楽しみのひとつです。

やがて、若衆達が竹ざおにつけた小松明を揺らしながら回すと、美しい火の輪が無数に描き出され、恋路の名にふさわしいロマンティックな世界が演出されます。次いで、大松明に点火。その瞬間、大松明は空を焦がさんばかりに燃え上がります。燃え盛る炎に鳥居とキリコが浮かび上がる光景は、まるで錦絵のよう。周囲にたくさん光の輪が乱舞する中、祭りは華やかに幕を閉じます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 観客の心をゆり動かす悲恋の物語
- 弁天島を目指して夜の海をキリコが乱舞
- 松明や仕掛け火が織りなす炎のページェント

開催日／7月「海の日」の前日
場所／能登町恋路地区
問い合わせ／能登町 ふるさと振興課
☎0768-62-8532



「油モノ」と呼ばれる仕掛け花火は見逃せません。

キリコラム

助三郎と鍋乃の悲恋伝説

700年余り昔のこと、毎夜浜辺で会っていた助三郎と鍋乃。ところが横恋慕する男の策略で若者は磯の深みで命を落とし、娘も後を追います。男は罪を悔い、僧となって男女の仲を取り持つようになったとか。恋路海岸には今、二人の銅像やカップルで鳴らすと幸せが訪れるという鐘が設置されています。



助三郎と鍋乃の像

どいやす祭り

どいやすまつり

25

迫力満点、掛け声とともに 巨大キリコを船に積みこむ



独特の形状が風雅な「袖キリコ」

イカ釣り漁の基地として知られる能登町姫地区。大漁を祈願する諏訪神社の夏の例祭「どいやす祭り」では、奴風に似た独特の形状をした「袖キリコ」が町を練り歩きます。

キリコの製作は、毎年5月頃から準備が始まります。障子紙を貼りあわせて1枚の大きな紙にし、歌舞伎などを題材に艶やかな人物画を描きます。背景には、細く切った色紙を貼りつけ、絵に奥行きを出す工夫がなされているのが特徴です。

船で悠々と港内を巡行

6基あるキリコは車輪がついており、動きはスピーディー。ふいに止まってキリコを大きく揺さぶって、また走り出す。漁師町らしさが感じられるスリル満点の巡行です。

夜10時頃、姫漁港に集合したキリコのうち3基が伝馬船で港内を巡行します。船にキリコを積みこむところが一番の見せ場。かがり火がたかれる中、「積棒(つんぼ)」と呼ばれる木材2本をキリコの台に差し込んで持ち上げ、太鼓のリズムに合わせて「ヨイトシヨ、ヨイトシヨ」の掛け声とともに勢いよく担ぎ上げて伝馬船に移します。その迫力には誰もが興奮。祭りの参加者だけでなく見物客も声を合わせ、町中がひとつになる瞬間です。

積み込みが終わると火花が打ち上がり、船は悠々と港を回ります。キリコの明かりが海面に映り、幻想的な美しさに心を奪われます。



海に入る袖キリコ。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 巨大な袖キリコを船に積み込むさまは迫力満点
- 袖キリコの独特の形の面白さ
- 2か月をかけて完成させる見事な人物画

開催日／7月第4土曜日・日曜日

場所／能登町姫地区

問い合わせ／能登町 ふるさと振興課

☎0768-62-8532

キリコラム

「袖キリコ」って何？

一般的な直方体のキリコを「行灯キリコ」と呼ぶのに対して、奴風に似た形のキリコは、夜着の袖を思わせることから「袖キリコ」と呼ばれます。一説には、ねぶたの流れをくむものといわれますが、定かではありません。袖キリコは、能登町姫地区の「どいやす祭り」、小木地区の「小木袖キリコ祭り」、鵜川地区の「にわか祭」など、能登内浦の一部で見ることができます。



「小木袖キリコ祭り」の袖キリコ



「にわか祭」の袖キリコ

小木袖キリコ祭り

おぎそできりこまつり

26

急坂の石段を上り下り 気合みなぎる宮入りに興奮



海岸道路に並んだ袖キリコ。
道路は大きな武者絵に埋め尽くされ、時代絵巻のようです。

夜の港にゆれて映る「袖キリコ」

能登町小木地区は全国有数のイカ漁の基地港。御船神社の秋祭りでは、奴凧を思わせる「袖キリコ」が地区内を練り歩きます。

祭りの初日、庄崎(港の東側)に集合したキリコは、港を海岸沿いにぐるりと練り歩き、西町海岸(港の西側)で休憩。海岸沿いに並んだ9基のキリコの灯りが水面に映り、幻想的な光景が浮かび上がります。

急坂を上る迫力満点の宮入り

初日のクライマックスは、高台にある御船神社を目指しキリコが急坂を上る「宮上げ」。午後10時を過ぎると、笛や太鼓が激しく鳴り響く中、神社へ向かう「宮やしろ坂」の石段を上ります。綱で引き上げる前方、押し上げる後方、歯止め役に分かれ、「ヨイトショー、ヨイトショー」と声をかけながら、力を合わせて少しずつ上ります。神社で御祓いを終えると、今度は下り。上りの際には、段差をなくすため石段に三角形の木材を置きますが、帰りは木材を外されるため、石段を落ちるたびにキリコの下についている車輪が激しく音を立てます。一同が息を合わせ、石段を一段一段下りていくさまは迫力満点。凄まじい気合いに見る人も思わず声を出してしまうほどです。

翌日、キリコは神輿とともに町内を押し合いへし合いしながら巡行。午後5時には港の最奥部で華麗な「辻回し」が行われます。フィナーレの宮入りでは、神輿を神社に帰さないようにキリコが行く手を阻み、この駆け引きも見どころのひとつです。

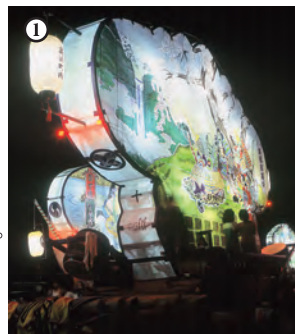
ココがみどころ【感動ポイント】

- 夜の小木港に並ぶ袖キリコの幽玄美
- 袖キリコを押し上げる「宮上げ」の迫力
- 神輿と袖キリコとの駆け引きのおもしろさ

開催日／9月第3土曜日・日曜日
場所／能登町小木地区
問い合わせ／能登町 ふるさと振興課
☎0768-62-8532



①「宮坂」の石段を上るキリコ。明かりがともり、絵が浮かび上がります。
②石段を、掛け声とともに息を合わせて一段一段と登っていきます。



能登町
寄り道スポット

九十九湾



大小の入り江が続くリアス式海岸。蓬莱島が浮かび、風光明媚。

恋路海岸



悲恋伝説の二人の銅像、「幸せの鐘」があるロマンチックな砂浜。

やなぎだ植物公園



四季折々の花を満喫、天体観測やプラネタリウムも楽しめる。

にわか祭

にわかまつり



車のついた「にわか」を夜通し威勢よく曳きまわします。

27

豪華な武者絵キリコが乱舞
明け方近くまで熱狂が続く

武者絵に豊漁安全の願いを込めて

袖キリコの中でも、特徴的なキリコが出ることで有名なのが能登町鶴川地区のにわか祭です。その昔、不漁や海難事故が続いたため、海の女神である市杵島姫命(弁財天)を祀る海瀬神社に豊漁、海上安全を祈願し、凜々しい武者絵を描いた行燈を担いで奉納したことが始まりと伝えられています。以来、鶴川の漁師達は祭礼に使われた御幣や武者絵を豊漁安全のお札として船や神棚に飾ることが習わしとなっています。

お殿様をもてなすために披露

「にわか」の名は、加賀藩13代藩主・前田斉泰公が能登を訪れた時、旅情を慰めようと袖キリコをにわか作りで組み立てて披露したことが由来といわれています。「にわか」と呼ばれる袖キリコは、高さ約7m、幅約5.4mのユニークな形状で、ほかの地区のキリコのように神輿のお供ではなく、御幣を使って神様を乗せているのが特徴です。

祭りの初日、日が暮れると、9基の「にわか」が「見卸しの浜」と呼ばれる広場に集まり、花火を合図に町内を練り歩きます。深夜に鶴川大橋を渡って宮入り。太鼓や鉦に激しく囃されて、若者達が境内を威勢よく練り回り、祭りは明け方近くまで続きます。

各町が創意を凝らした豪華な武者絵を、住民や見物客が品評し合うのも祭りの楽しみです。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 「見卸しの浜」に勢ぞろいした9基のキリコの迫力
- 鶴川大橋を渡る際の、川面に映る武者絵の美しさ
- 海の安全を祈願し夜通して続く勇壮な乱舞

開催日 / 8月第4土曜日

場所 / 能登町鶴川地区

問い合わせ / 能登町 ふるさと振興課

☎0768-62-8532



① 勢ぞろいした「にわか」。壮観です。

② 浮かび上がる武者絵。明かりに映える色彩や立体的に見えるように下地紙など工夫が凝らされています。



キリコラム

能登町のキリコが勢ぞろい「ござれ祭り」

やなぎだ植物公園に能登町の自慢のキリコが集まるイベントです。野外ステージでは和太鼓やYOSAKOIソーランなどが繰り広げられ、特産品が味わえる屋台も人気です。夜になると一斉にキリコに灯りがとまり、あたりは幻想的な世界へ。華やかな仕掛け大花火がクライマックスを飾ります。

○開催日: 8月第3土曜日



能登町の自慢のキリコが勢ぞろい。

柳田大祭

やなぎだたいさい

28

ろうそくを灯したキリコが巡行
素朴さ伝わる里山の秋祭り

白木造りでシンプルな大キリコ

奥能登の内陸部にあり、海岸線に接することがない能登町柳田地区のキリコ祭り「柳田大祭」は、その年の五穀豊穣に感謝して行われます。神輿に伴うキリコは高さ13mにもなり、白木造りで、胴体部分の正面には3文字の漢文、背面には絵ではなく神紋が描かれており、質朴で剛健な造りが大きな特徴です。また、明かりは昔ながらの和ろうそくで灯されます。

暗闇の中を静かに巡行

年によって巡行するキリコの数は異なりますが、白山神社での神事後、キリコが5基の神輿を導き、町野川のほとりにある「番場」と呼ばれる広場に向かいます。笛と鉦、太鼓がゆつたりとしたテンポで囃され、真つ暗な道を静かに巡行。貫録を感じさせる足取りに、ろうそくの明かりがゆらめき、しっとりとした情緒が漂います。

番場では、5本の御幣をさした大松明が燃え上がり、火の粉が舞う中、神輿とキリコがゆつくりと一周。御幣を手に入れると1年を無病息災で過ごすことができるといわれ、松明が燃えつきると、若衆達が我先にと御幣を奪い合います。手に入れた御幣は床の間や座敷の高い所に飾っておくのが習わしです。

番場での神事が終わると、神輿とキリコは神社へと戻り、境内を走ること3往復。神饌を供えて宵祭りは終わります。漁師町の祭りとは異なる、里山のどこか素朴なキリコ祭りです。

能登人からの一言メッセージ

和ろうそくを灯した白木造りのキリコが、ゆらゆら揺られながらあぜ道をゆっくりと進んでいく姿は、何とも言えない風情があります。祭りの写真を見て「なんだか懐かしい」とお便りをいただくことも。ぜひ足を運んで、山あいの素朴な祭りの情緒を味わってください。



写真家
渋谷 利雄さん
しぶや としお

能登に伝わる大小の祭りを半世紀にわたり撮影。「能登を彩る三つの朱(アカ)」がライフワーク。



① 簡素な飾りつけの大きな白木のキリコ。古い形がそのまま今に受け継がれています。
② 神事の様子。宮司と氏子の代表とともに正装で、厳かに執り行われます。

ココがみどころ【感動ポイント】

- キリコ祭りの原形を留める素朴な秋祭り
- 白木造りで高さ約13mの大キリコ
- ゆつたりとしたテンポに情緒がただよう

開催日／9月16日・17日
場所／能登町柳田地区
問い合わせ／能登町 ふるさと振興課
☎0768-62-8532

「番場」に勢ぞろいしたキリコ。ろうそくの灯りが闇にゆらめき、情緒があふれます。



松波人形キリコ祭り

まつなみにんぎょうきりこまつり

29

趣向をこらした人形を載せ
威勢よくキリコが練り歩く

人形のできばえを競い合う

能登半島の内海に面した能登町松波地区で行われる夏祭りのキリコは風変わりりで、各町が担ぎ出すキリコの前面に手づくりの人形が飾られています。人形は、歴史上の人物や桃太郎の鬼退治など昔話の一場面、その年に話題になったものなど、テーマはさまざま。各町は毎年3週間ほどかけて、新しい人形を製作。趣向をこらした人形はどれも見応え十分です。

祭りは昼頃、キリコが松波神社に集合するところから始まります。神事を終えると、神輿を先頭に9基のキリコと「子どもキリコ」5基が列をなして町内を巡行。その後、午後2時から各町の人形のできばえを競う「人形審査」が始まります。全部の人形を間近に見るなら、この時がおすすです。

昼とは異なる趣、夜の人形キリコ

お囃子にも注目です。松波では太鼓と鉦、笛に合わせて練り歩きます。太鼓は速度に合わせて「並足」「速足」「三番叟」「休み」で打ち方が異なり、掛け声も変わります。町ごとに違いがあり、聞きくらべるのも一興です。

夜10時、明かりが灯されたキリコは町の中心部の交差点に集合。お囃子のリズムに煽られ、1基ずつ勇壮に乱舞。熱狂の中、ライトアップされた人形は陰影を濃くし、昼間とは違った表情を見せます。やがて、全町の舞が終わると、三本締めで手打ちをし、祭りを締めくくります。

ココがみどころ【感動ポイント】

- 人形を飾った総漆塗り金箔張りの豪華なキリコ
- 各町が工夫をこらし、できばえを競う「人形審査」
- 巡行の速度で変わる太鼓の打ち方を聞きくらべ

開催日／7月第4土曜日

場所／能登町松波地区

問い合わせ／能登町 ふるさと振興課

☎0768-62-8532



① 華やかな人形キリコが町内を巡行します。

② 夜、松明の周りをキリコが練り歩きます。



キリコラム

さまざまな「人形キリコ」

能登のキリコは江戸時代の文化・文政年間に、より立派で目立つキリコへと進化し、装飾も豪華に工夫されるようになりました。その流れの中で、人形を飾るキリコが登場します。人形のモチーフは歴史上の人物から現代的なものまで多種多様。能登町松波地区の人形のように、骨組みの上に藁を巻いてつくるもの、珠洲市飯田町の張り子(燈籠山)のように、骨組みに紙を貼り絵を描いたものなど、つくり方も地域によってさまざまです。



飯田町燈籠山祭り



松波人形キリコ祭り

「人形審査」。勢ぞろいしたキリコの前面には手作りの人形が飾られていて、そのできばえを競い合います。

※開催日は変更になる場合があります。各市町にお問い合わせのうえお出かけください。

	27 にわか祭 (能登町) 8月第4土曜日	■開催場所 / 能登町鶴川地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約30分 ■駐車場 / 旧鶴川駅前 / 普通車10台 (大型バス10台)・旧鶴川小学校 / 普通車20台・鶴川小学校 / 普通車20台・鶴川バイパス / 大型バス20台 (片側駐車)・鶴川保育所横 / 普通車10台 (片側駐車) ■キリコデータ / にわか:9基、高さ約6m ■メインタイム / 21時~24時頃 鶴川本町通り ■花火 / 20時45分~ 見御しの浜
	22 中居キリコ祭り (穴水町) 8月最終土曜日	■開催場所 / 穴水町中居地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約20分 ■キリコデータ / キリコ:3基、高さ約4.5m ■メインタイム / 19時~25時
	17 富木八朔祭礼 (志賀町) 8月最終日曜日とその前日	■開催場所 / 志賀町富来・東増穂・稗造地区・志賀町富来地区 ■交通アクセス / 西山 (IC)より車で約30分 ■駐車場 / 志賀町民野球場 / 普通車100台 (大型バス20台)・領家浜駐車場 / 普通車50台 (大型バス10台) ■キリコデータ / キリコ:35基、高さ約6~7m ■メインタイム / 初日:20時~21時頃 八幡神社・2日目:14時20分~15時30分 住吉神社・領家浜・19時~21時頃 八幡神社
9月 September	14 蛸島キリコ祭り (珠州市) 9月10日・11日	■開催場所 / 珠州市蛸島町 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約60分 ■駐車場 / 野球場 / 普通車100台 (大型バス10台)・蛸島漁港前 / 普通車300台 (大型バス50台)・旧蛸島駅 / 普通車10台 ■キリコデータ / キリコ:16基、高さ約5.5m ■メインタイム / 2日目:20時30分頃~高倉彦神社 (キリコ勢揃い、早船狂言)
	13 寺家キリコ祭り (珠州市) 9月第2土曜日	■開催場所 / 珠州市三崎町寺家地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約70分 ■駐車場 / 寺家漁港前 / 普通車30台 (大型バス5台) ■キリコデータ / キリコ:4基、高さ約16.5m、重さ3~4t ■メインタイム / 21時~22時頃 須須神社
	19 大町・川島祭り (穴水町) 9月第2土曜日	■開催場所 / 穴水町大町・川島 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約10分・此木 (IC)より車で約5分 ■駐車場 / J A おおぞら駐車場 / 普通車50台 (大型バス10台)・役場前駐車場 / 普通車50台 (大型バス5台) ■キリコデータ / キリコ:11基、高さ約5.5m・山車:10基 ■メインタイム / 21時頃 大町・川島本町通り (キリコ勢揃い)
	15 正院キリコ祭り (珠州市) 9月14日・15日	■開催場所 / 珠州市正院町 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約55分 ■駐車場 / 正院公民館 / 普通車10台 ■キリコデータ / キリコ:9基、高さ約5~7m ■メインタイム / 初日:21時~22時頃 須受八幡宮・2日目:15時~18時頃 須受八幡宮 (奴振り) 20時~21時頃 須受八幡宮
	28 柳田大祭 (能登町) 9月16日・17日	■開催場所 / 能登町柳田地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約30分 ■キリコデータ / 大キリコ:1基、高さ約13m・中キリコ:1基~4基 ※キリコの数には年によって変わる ■メインタイム / 22時30分~24時 白山神社前
	20 前波曳山祭り (穴水町) 9月第3土曜日・日曜日	■開催場所 / 穴水町前波地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約25分・此木 (IC)より車で約20分 ■駐車場 / 前波農村公園 / 普通車20台 (大型バス3台) ■キリコデータ / キリコ:4基、高さ約5.5m ■メインタイム / 初日:22時~23時頃 諸橋稲荷神社・2日目:20時~22時頃 神輿奉納
	26 小木袖キリコ祭り (能登町) 9月第3土曜日・日曜日	■開催場所 / 能登町小木地区 ■交通アクセス / のと里山空港 (IC)より車で約1時間 ■キリコデータ / キリコ:9基、高さ約6m ■メインタイム / 初日:23時頃~ 御船神社へ向かう坂 ■花火 / 初日:20時45分~小木港

能登へのアクセス 平成28年3月末現在

- 航空機
 - 羽田⇄のと里山空港 … 約1時間 [2往復/日]
- 鉄道
 - 金沢⇄和倉温泉 … 約1時間 [JR七尾線]
 - 和倉温泉⇄穴水 … 約40分 [のと鉄道]

※所要時間は最速利用の場合です。
 ※大阪駅・名古屋駅までの直通列車 (大阪駅発:特急「サンダーバード」、名古屋駅発:特急「しらさぎ」) もあります。
 ※観光列車 (JR七尾線「花嫁のれん」、のと鉄道「のと里山里海号」) もご利用いただけます。
- 自動車
 - 金沢⇄輪島 … 約1時間50分 [115km]
 - 金沢⇄珠洲 … 約2時間10分 [135km]
 - 金沢⇄のと里山空港 … 約1時間25分 [85km]
 - 金沢⇄和倉温泉 … 約1時間10分 [70km]

※上記はいずれものと里山海道を經由した目安です。
- 特急バス
 - 金沢⇄七尾・輪島・珠洲方面ほか [約20往復/日]

※詳細はこちらから <http://www.hokutetsu.co.jp/>

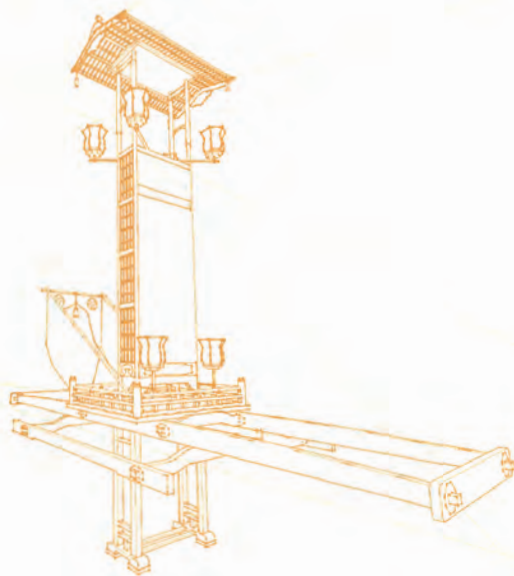


能登のキリコ祭りカレンダー

Noto KIRIKO festival Calendar

7月 July	23 あばれ祭 (能登町) 7月第1金曜日・土曜日	開催場所 / 能登町宇出津地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分 駐車場 / JF石川能都支所製氷施設横 / 普通車100台(大型バス20台)・宇出津新港 / 普通車200台(大型バス50台)・遠島山公園 / 普通車50台(大型バス10台) キリコデータ / キリコ約40基(大人キリコ:高さ約7m、子供キリコ:高さ約3~4m)・あばれ神輿:2基 メインタイム / 初日:21時~23時 能登町役場前広場・2日目:21時~翌2時頃 新町通り・八坂神社 花火 / 初日:20時30分~ 能登町役場前
	04 七尾祇園祭 (七尾市) 7月第2土曜日	開催場所 / 七尾市山王町(及び市街地東部) 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約1時間・JR七尾駅下車徒歩で約10分・和倉温泉より車で約15分 駐車場 / 七尾市営駐車場・市役所前 / 普通車121台(大型バス20台)・七尾市袖ヶ江第二立体駐車場 / 普通車66台 キリコデータ / 奉燈:1基、高さ約15m、重さ2t・奉燈:10基、高さ約6~10m、重さ1t メインタイム / 20時30分~21時30分頃 湊町の飯宮前広場・23時30分~0時30分頃 大地主神社
	10 剣地八幡神社大祭 (輪島市) 7月「海の日」直前の土曜日・日曜日	開催場所 / 輪島市門前町剣地地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分・輪島ふらっと訪夢より車で約30分 駐車場 / 第一駐車場 / 普通車40台(大型バス2台)・第二駐車場 / 普通車20台(大型バス2台)・第三駐車場 / 普通車10台(大型バス2台)・第四駐車場 / 普通車30台(大型バス4台) キリコデータ / キリコ:3~4基、高さ約1.5~4m メインタイム / 初日:18時~22時頃 八幡神社(キリコ勢揃い)・2日目:17時~24時頃 八幡神社(神輿奉納)
	24 恋路火祭り (能登町) 7月「海の日」の前日	開催場所 / 能登町恋路地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約45分 駐車場 / なかの洋菓子店前 / 普通車20台・恋路海岸2ヶ所 / 普通車40台 キリコデータ / 中キリコ:1基、高さ約5m・小キリコ:1基、高さ約4m メインタイム / 21時~22時頃 恋路海岸(キリコ海中乱舞) 花火 / 21時~ 弁天島
	12 飯田町燈籠山祭り (珠洲市) 7月20日・21日	開催場所 / 珠洲市飯田町 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約50分 駐車場 / 飯田港駐車場 / 普通車300台 キリコデータ / 燈籠山:3基、高さ約16m・曳山:6基 メインタイム / 初日:20時頃 吾妻橋付近(燈籠山・曳山勢揃い) 花火 / 初日:20時~吾妻橋
	29 松波人形キリコ祭り (能登町) 7月第4土曜日	開催場所 / 能登町松波地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約50分 キリコデータ / キリコ:9基・子供キリコ メインタイム / 12時~17時頃 町内練り歩き 21時頃~ 松波中央交差点
	03 塩津かがり火恋祭り (七尾市) 7月第4土曜日	開催場所 / 七尾市中島町塩津 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分・徳田大津(IC)より車で約10分・和倉温泉より車で約15分 キリコデータ / 奉燈:9基、高さ約3~7m メインタイム / 19時~21時頃 塩津海岸~笠節保駅(神輿・奉燈キリコ海上渡御) 花火 / 21時~ 塩津海岸
25 どいやさ祭 (能登町) 7月第4土曜日・日曜日	開催場所 / 能登町姫地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約50分 キリコデータ / 袖キリコ:6基 メインタイム / 初日:21時頃~ 船揚げ場	
02 能登島向田の火祭 (七尾市) 7月最終土曜日	開催場所 / 七尾市能登島向田町 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約1時間・和倉温泉より車で約20分 駐車場 / 向田漁港駐車場 / 普通車100台(大型バス10台)・健康センター駐車場 / 普通車60台(大型バス5台)・能登島市民センター(市民センターは3月末に廃止)駐車場 / 普通車40台・ガラス美術館駐車場 / 普通車300台(大型バス30台) キリコデータ / 奉燈:7基、高さ約8m メインタイム / 21時~23時頃 崎山の干場(大松明) 花火 / 21時~ 向田漁港	
09 水無月祭り (輪島市) 7月30日・31日	開催場所 / 輪島市南志見地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約40分・輪島ふらっと訪夢より車で約20分 駐車場 / 祭り会場周辺 キリコデータ / キリコ:8基、高さ約6m メインタイム / 初日:23時~翌1時頃 旧南志見中学校(キリコ乱舞) 南志見海岸(大松明)	
07 名舟大祭 (輪島市) 7月31日・8月1日	開催場所 / 輪島市名舟町 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約40分・輪島ふらっと訪夢より車で約20分 駐車場 / 名舟港 / 普通車30台(大型バス5台) キリコデータ / キリコ:5基、高さ約7m メインタイム / 7月31日:21時~23時頃 奥津比咩神社、名舟港・8月1日:14時~16時頃 奥津比咩神社、名舟港 花火 / 7月31日:22時~ 名舟港前	
8月 August	01 石崎奉燈祭 (七尾市) 8月第1土曜日	開催場所 / 七尾市石崎町 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約1時間・JR和倉温泉駅より徒歩約10分・和倉温泉宿泊者に限りシャトルバスを予約制で運行。申込は各旅館へ。(無料) 駐車場 / ワクラ村田製作所 臨時駐車場 / 普通車250台・インライト工業 臨時駐車場 / 普通車100台 キリコデータ / 【前夜祭】大奉燈:1基、高さ約12m・小奉燈7基、高さ5~6m【祭り当日】大奉燈:6基、高さ約12~15m メインタイム / 【前夜祭】17時~19時頃、21時~23時頃 和倉温泉駅前広場【祭り当日】15時20分~18時頃、22時50分~午前0時頃 堂前広場 花火 / 祭り当日:20時~ 石崎漁港
	11 宝立七夕キリコまつり (珠洲市) 8月7日	開催場所 / 珠洲市宝立町鵜飼地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約45分 駐車場 / 見付園地 / 普通車200台・旧鵜飼駅 / 普通車10台 キリコデータ / 大キリコ:6基、高さ約14m・小キリコ:1基、高さ約6m メインタイム / 22時頃~ 見付海岸(キリコ乱舞) 花火 / 22時頃~ 鵜飼海岸
	05 新宮納涼祭 (七尾市) 8月14日	開催場所 / 七尾市中島町藤瀬 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約40分・横田(IC)より車で約5分・和倉温泉より車で約30分 駐車場 / JA能登わかばライセンスセンター / 普通車20台 キリコデータ / 奉燈:13基、高さ約3m~8m メインタイム / 20時頃 藤津比古神社(奉燈勢揃い)・21時頃 御旅所(キリコ乱舞) 花火 / 20時30分~
	16 西海祭り (志賀町) 8月14日	開催場所 / 志賀町風戸・風無 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分・西山(IC)より車で約45分 駐車場 / 西海風戸バス停付近 / 普通車50台 キリコデータ / キリコ:20基、高さ約4~6m メインタイム / 21時~22時頃 風戸バス停付近・23時~24時頃 松ヶ下神社、西海神社
	18 沖波大漁祭り (穴水町) 8月14日・15日	開催場所 / 穴水町沖波 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約25分・此木(IC)より車で約20分・和倉温泉より車で約45分 駐車場 / 立戸の浜付近 / 普通車20台(大型バス2台) キリコデータ / キリコ:5基、高さ約7m メインタイム / 2日目:9時~11時頃 立戸の浜(キリコ乱舞) 花火 / 初日:20時~
	21 明千寺キリコ祭り (穴水町) 8月15日・16日	開催場所 / 穴水町明千寺地区 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約40分 キリコデータ / キリコ:1基、高さ約9m メインタイム / 夜間
	08 曾々木大祭 (輪島市) 8月17日・18日	開催場所 / 輪島市町野町曾々木海岸 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分・輪島ふらっと訪夢より車で約20分 駐車場 / 曾々木シーサイドパーク / 普通車40台(大型バス10台) キリコデータ / キリコ:5基、高さ約7~10m メインタイム / 21時~23時頃 窓岩付近、春日神社 花火 / 22時~ 窓岩ポケットパーク
	06 輪島大祭 (輪島市) 8月22日~25日	開催場所 / 輪島市中心部(海士町・河井町・風至町・輪島崎町) 交通アクセス / のと里山空港(IC)より車で約30分・輪島ふらっと訪夢より徒歩で約10~20分 駐車場 / 初日:マリンタウン朝市駐車場 / 普通車350台(大型バス20台)・2日目:市役所前三角州駐車場 / 普通車166台(大型バス6台)・3日目:マリンタウン朝市駐車場 / 普通車350台(大型バス20台)・4日目:マリンタウン朝市駐車場 / 普通車350台(大型バス20台) キリコデータ / 初日:約11基、高さ約5.5m 海士町・2日目:約20基、高さ約5.5m 河井町・3日目:約15基、高さ約5.5m 風至町・4日目:約7基、高さ約5.5m 輪島崎町 メインタイム / 初日:17時頃 袖ヶ浜(御神輿海中乱舞)・2日目:23時頃 マリンタウン(キリコ勢揃い)・3日目:23時頃 輪島市役所前広場(大松明)・4日目:20~24時頃 輪島前神社~漁港周辺(キリコ勢揃い)

巨大な燈籠「キリコ」が威勢のいい掛け声とともにまちを練り歩き乱舞する。
江戸時代から連綿と続く「能登のキリコ祭り」は、
日本で育まれた美意識と純真な祈りの精神を色濃く残す伝統的な祭礼です。



CONTENTS

【特集】未来に語り継ぐ、魅力とところ

〔寄稿〕 神々に巡り会う旅～熱狂のキリコ祭り～
藤平 朝雄 氏

〔寄稿〕 キリコ - 構造と意匠からの考察
熊澤 栄二 氏

〔聞き書き〕 能登独自のもてなし文化「ヨバレ」

能登のキリコ祭り 見どころガイド

【七尾市】

- 01. 石崎奉燈祭 ……6
- 02. 能登島向田の火祭 ……8
- 03. 塩津かがり火恋祭り ……9
- 04. 七尾祇園祭 ……10
- 05. 新宮納涼祭 ……11

【輪島市】

- 06. 輪島大祭 ……12
- 07. 名舟大祭 ……14
- 08. 曾々木大祭 ……15
- 09. 水無月祭り ……16
- 10. 劔地八幡神社大祭 ……17

【珠洲市】

- 11. 宝立七夕キリコまつり ……18
- 12. 飯田町燈籠山祭り ……19
- 13. 寺家キリコ祭り ……20
- 14. 蜻島キリコ祭り ……22
- 15. 正院キリコ祭り ……23

【志賀町】

- 16. 西海祭り ……24
- 17. 富木八朔祭礼 ……25

【穴水町】

- 18. 沖波大漁祭り ……26
- 19. 大町・川島祭り ……27
- 20. 前波曳山祭り ……28
- 21. 明千寺キリコ祭り ……29
- 22. 中居キリコ祭り ……29

【能登町】

- 23. あばれ祭 ……30
- 24. 恋路火祭り ……32
- 25. どいやさ祭 ……33
- 26. 小木袖キリコ祭り ……34
- 27. にわか祭 ……35
- 28. 柳田大祭 ……36
- 29. 松波人形キリコ祭り ……37

能登のキリコ祭りカレンダー ……38

日本遺産「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」
活性化協議会（石川県観光企画課内）

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL(076)225-1542 FAX(076)225-1129
「能登のキリコ祭り」サイト
<http://www.hot-ishikawa.jp/kiriko/>



平成27年度 日本遺産魅力発信推進事業

平成28年(2016年)3月発行